



遺拾  
都名所圖會

龙青龍

E  
165  
2

逍遙文庫  
文庫6  
1874  
8





遠都名所圖會卷之二目錄



九青龍首

- 祇園削掛坊
- 祇園香煎
- 螢岨
- 泰山府君
- 祇園女御
- 崇德馬場
- 山之井
- 姬堂
- 地藏院
- 九重丹楓
- 日親廟塔
- 同神事
- 軒茶屋
- 直葛原
- 捨山王
- 鷺尾
- 桂橋寺
- 藻蟲菴旧趾
- 大日堂
- 清水隨求堂
- 秋葉社
- 通妙寺
- 千文稜
- 知恩院
- 歌仙堂
- 疫伏社
- 雲居寺旧跡
- 靈山寺
- 鼠堂屋敷
- 仲光院
- 尾振谷
- 六條院陵
- 良經公碑
- 神輿洗
- 太子水
- 芭蕉堂
- 蓮華院舊蹟
- 高基寺
- 舉白堂旧蹟
- 經書堂
- 寶德寺
- 南藏院
- 延年寺子
- 法園寺



伊澤



袋中菴 赤染地 安祥院 西光寺  
 阿佛家 西福寺 焰魔堂 六道迎送  
 城東寺 平教盛家 上行寺 岸  
 專定寺 智積院 新日吉社 劍宮  
 泉涌寺 善龍院 未迎院 安樂光院 觀音寺  
 善能寺 戒光寺 新善光寺 悲田院  
 萬壽寺 瀧尾祠 五葉辻 三聖寺  
 海藏院 俊成御墓 自然居士墳 西寺古蹟  
 法性寺旧蹟 同觀音 月輪 光明峯 光明峯跡 比彦堂  
 晴明墓 獨蝕水 藥師堂 遣迎院  
 極樂寺 稻荷山初午詣 小栗柄法善檀林 田中社  
 勸修寺 山階八幡宮 三條右大臣墳 明智光秀七蹟  
 大石屋舖 田村將軍墳 野色山 西之山巖屋社 小野隨心院

伊澤  
三ノ七

萱尾社 腰帶地彦 内裏芝 外山  
 北小栗柄大神 大宅巖屋社 大生寺 興福寺古跡 妙見社  
 牛尾名取山 布引瀧 地ヶ淵 鎌倉屋敷 法巖寺  
 白石明神社 白石菴 蓮如上人墳 實如上人墳  
 梅本寺 三宮社 花山阿彌陀堂 元慶寺  
 東山寺 神無森 諸葉山 十禪寺  
 四宮河原 奴茶屋 比藏寺  
 業平谷 護國寺  
 阿彌陀堂

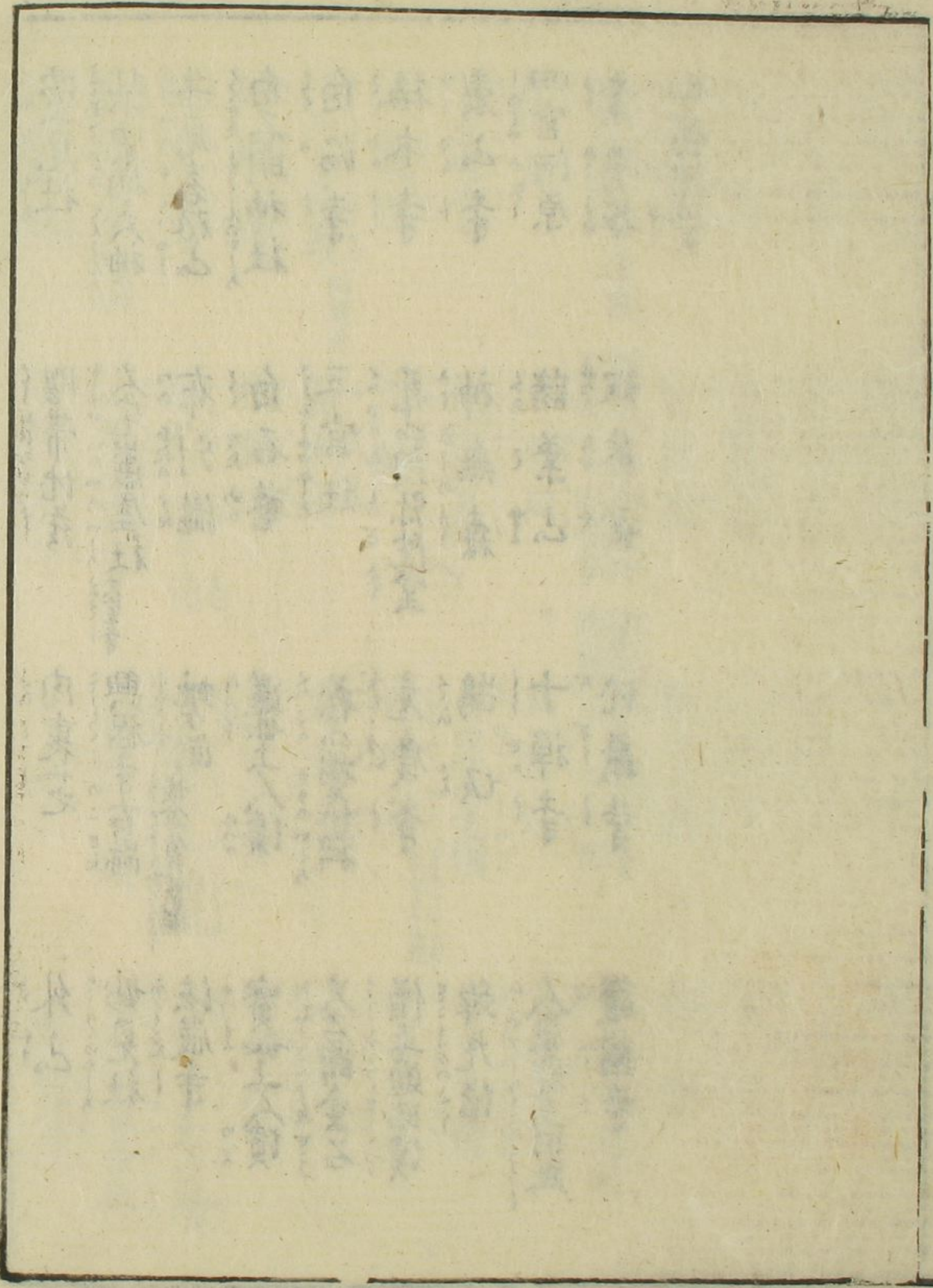




名どころを  
 あれを都に  
 案内者  
 圖會  
 夕々  
 画

東京大久保  
 餘丁町百拾番地  
 坪内雄藏

山本



二頁







祇園淨神詠

俗刺祇園午頭天王の淨神詠と云んは淨ちより近年櫻樹

祇園淨神詠 俗刺祇園午頭天王の淨神詠と云んは淨ちより近年櫻樹

玉葉 祇園淨神詠 俗刺祇園午頭天王の淨神詠と云んは淨ちより近年櫻樹

〇一 滿の梅 當社神樂所のちふあり

宗祇

今昔物語云祇園ハ元山階寺の末寺也云々有クハ又祇園乃東小比叡云々  
末寺蓮華院といふ寺あり云々は祇園の別當良兼といふ者ありて蓮華院  
の堂乃小微妙紅葉乃あり云々と折ふ云々蓮華院の僧とて制して曰  
別當云々天台末寺の内なる本と云々折らるる云々良兼大少噴て云々  
其本板のみ伐る末と云々從者板や云々折らるる云々良兼大少噴て云々  
從者の末ぬ云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々  
横川の良惠僧正天台の座主とて殿下の淨修法小法師寺小強云々  
て云々寄文と儲と加へと責と云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々  
隨ふと寄文と儲と加へと責と云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々  
加へと寄文と儲と加へと責と云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々  
座主より傳へる良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々  
彌噴云々西塔の平南房小住云々春荷と云々武術身一人の致頼云々  
といふ名高と云々二人と祇園云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々  
却り云々其後云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々  
祇園社 百首 板の板より板か云々良兼大少噴て云々良兼大少噴て云々  
後成

祇園削掛神事

天照大神の神樂事と云 毎茶除夜子の外の以より社系

の諸人雜言と恣に他人と誹謗と假令其聲と聞其人と知ると云々

されと争はんと恨と邪義の板より勸善徵惡の責ありん其雜言に

勝る方近年乃若北あり云々系法一向の道條云々も放言云々板世

俗謬て是と削掛といふ神事と母の刺計小社勢執行腰樂云々の社

司前驅して社系一執行の拜殿小昇と神前小黙坐と云々少時ありて

経咒と誦一 天下安全依禱と東西の欄れ内ハ削掛の本と左不遠

並おのく六屯云々即十二月の板と表と同時小足と燎と具烟の靡と

向方と見て今年五穀の豊凶と云々厥后社司新小井水と汲と削掛乃

尖と云々元朝の神供と調と足新年の水火と改の義と系諸の諸人も

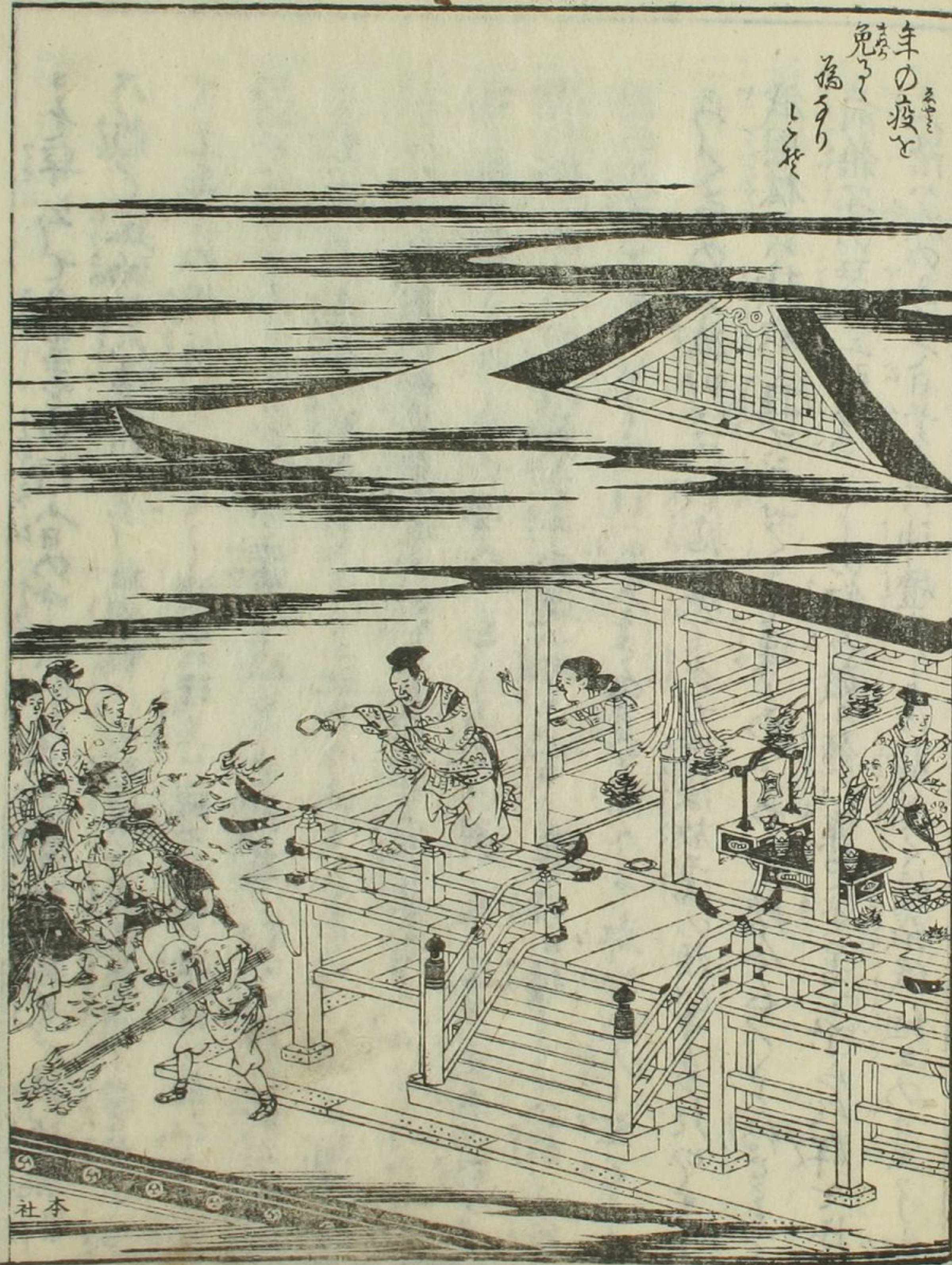
亦具火と推つて家小飯と云々元朝の足と煮と

千文板 三月十四日當社小あり社説云曰實錢千文と抛と小繩と云々

神樂洗 五月晦日六月十八日小あり當社の け日夜小入て四條通大和入後のがと

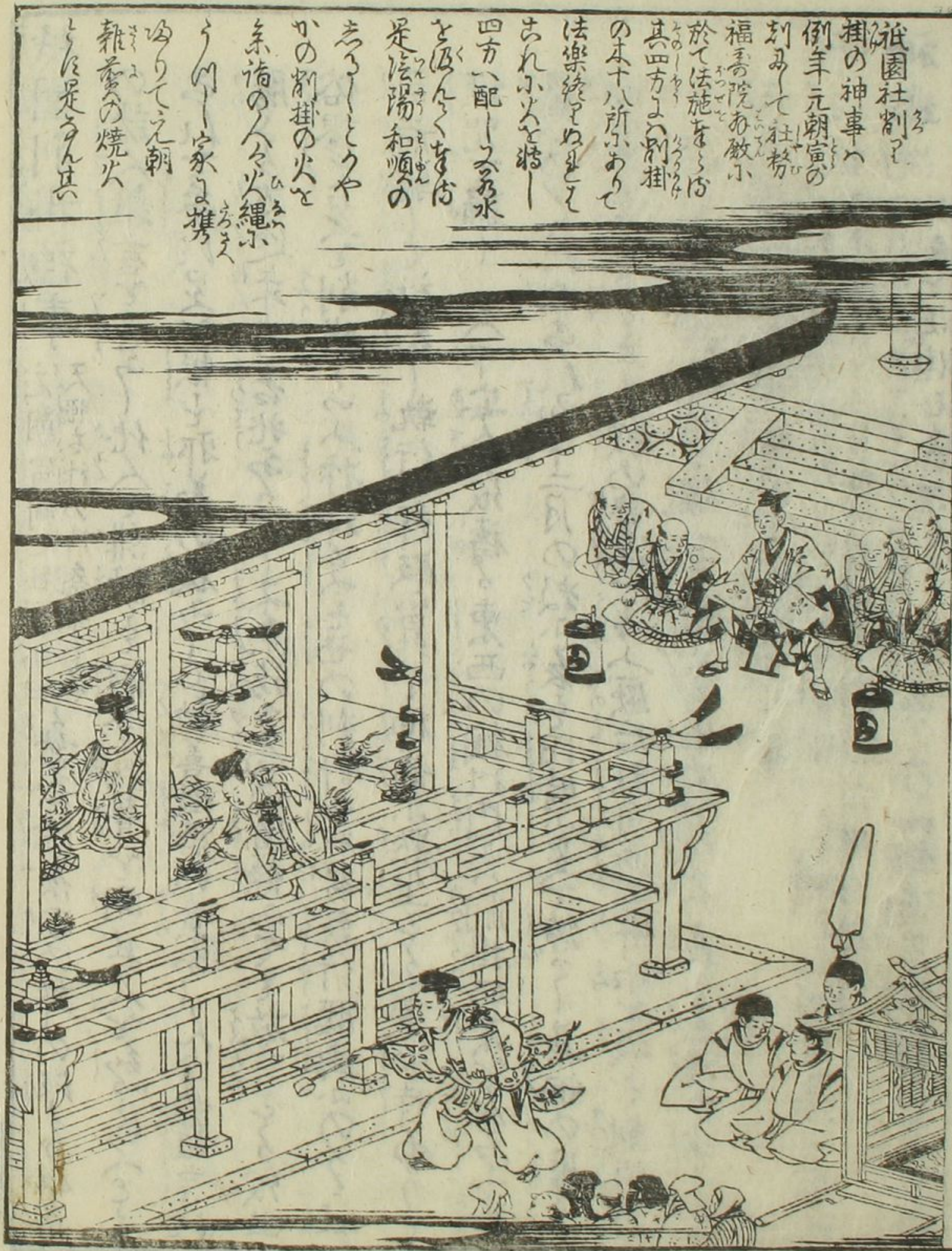
神樂洗 五月晦日六月十八日小あり當社の け日夜小入て四條通大和入後のがと





年の疫と  
 免す  
 福あり  
 山本

社本



祇園社割  
 掛の神事ハ  
 例年元朝宮の  
 刻み社務  
 福壽院を敷小  
 於て法施をさす  
 其四方ハ割掛  
 の本十八所ありて  
 法樂終りぬとて  
 され小舟を特  
 四方ハ配一る水  
 を汲んくを舟  
 足法陽和順の  
 志すしとくや  
 かの割掛の火と  
 糸指の火火繩小  
 う川一水家と携  
 ぬりて之朝  
 報養の焼火  
 とは是るん共

山本



まを昇出でて糸車と執行よ日の中ふ壯麗なる葛衫と揃着て津途挑灯  
乃粒く跣物の大後系烈とあり祇園鴨川の妓婦女伶の軍月小壁花小准  
てえあゝぬ凡流流流はくし頭小珠玉と鏤め身小錦繡と絡ひ女を髪  
のあてさうらんをさうひと露とぬとて刺落しむくつけた断髮魁頭  
と愛とあゝ色白く肌をのきさうふ肥あつとさうとあつとあつと相撲取  
ねまのひして翠の髪と鬢毛を額小角と之大花茶小より女もさうん  
嘸し顔小出ささうりた又入んさうさうま雲の籠小粧ひ女清更衣の籠る  
姿と摸し二八さうぬ兵少奉の道小おをさうと七の姥小優して日の斜小祇  
園の花街と東へ通る津社へ踏入るさうぬ足とさんと都鄙の人々群々さう  
うらぐさのま枝のり仮店簾と甚て浮浪放蕩の顔ひさうたつり  
祇園林小枝敷と構て所せくを連とあうさうせげ今やくと信とさう  
前稚子の琴二弦後さうの鉦右鼓小籠ひ集る炎暑と心とら群とほ  
大活りのさうそ日言さう神燈のさうけ驛圓く縮張紙細工の墨さう灯

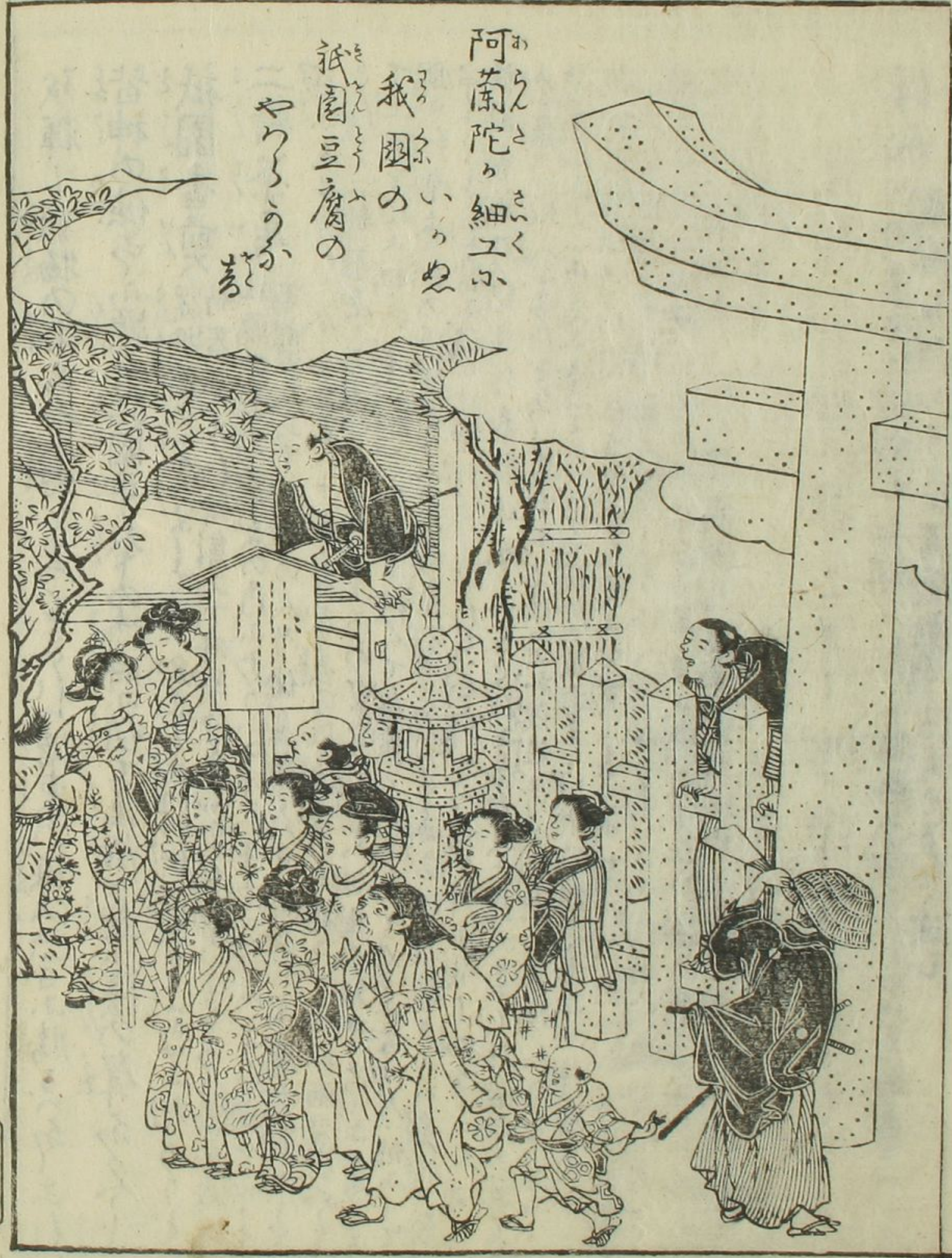
祇園香煎 祇園の名産ありて世々高し西門の街小製茶とさう五軒ありと  
二軒茶屋 社頭のむ大花表の内小ありさうへ茶店小鐘子とさう湯と必し  
皆神の徳さう頭と治國平天下の時値て萬感と謳へ慶の聲ありと  
祇園會館 祇園の外表諸の人々小ありさう又六月六日小神樂所小於て  
酒飯旅傳は所の相俗さうとさう魚肉と買ふ未だ禁はさう  
山の前院ありて佛壇乃さうりさうりさうりさうりさうりさうり  
ひさ乃遺風さうりさうり阿蘭陀人落東通行の時東方の茶店さうり  
月をさうり花の昔月々り二軒茶屋 季吟  
浮水 二軒茶屋の名産と大梅の英友梅醜小漬さうりさうり酒毒とけし  
食帯旅治とさうり來客懇をさうりさうりさうり進む



祇園 二軒茶屋



阿蘭陀の細工  
 我國の  
 祇園豆腐の  
 やりようか





知恩院本堂

昔ハ大津影堂と名付東西廿二間又南小十七間之尺又寸瓦葺南面

本尊圓光大師影像

大師の作自他より居敷に補の時の記あり其中小

釋迦像

堂後小圖と終所善導大師像長二尺寸足

神變不思議佛舍利

堂内小安室に神變の義山上人舍利の記小

大方丈

東西十七間半佛間阿彌陀尊の立像

拜間

金張舟松小鶴の極彩色上段中段

梅間

金張舟画ハ梅小雅松小鳩極彩色画二ハ

菊間

金張舟菊の画極彩色上段中段

柳間

金張舟柳小燕の極彩色上段中段

鐘樓

延宝六年十二月十五日供養あり

輪藏

本堂の東小あり傳大士普建

坐禪石

大方丈の庭小あり昔法法和尚は石上小

鎮守八幡宮

相殿ハ天照左神春日山王

山門

五柱の許造建あり寺説小曰之解脱門小集して

下氣

石殿藤木甲斐の字之徒然州小曰退凡下氣乃率都築外

松馬場

路傍の松江列膳所の城主本多康頼されと寄附し

鉄盤石

山門の下小あり傳之之條小鍛冶宗近鉄盤小ありひとる

阿弥陀堂

山門の上小あり舊ハ東の上勢至堂の前小あり

古墳

阿弥陀堂の小あり五輪の石塔は高九尺五寸

倉極樂寺

忍證の墓之を子堂置ふあり近世まての忌所ふを子

無銘の心小

或説するは後考あり

初先安

之の所ハ之條五又運慶の化あり今本堂殿壇小あり

の四天

安座多持國増長慶目之星入義山上人享保二年

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり

の四

天の蟠龍の画ハ海北竹齋の筆なり



本堂廻櫻樹 定の城主永井信慶守 影向石 法然上人降臨の時加茂を根

元祖御廟 東の山上のあり賜蓮堂と云つては名義は法然上人傳記小曰

其後上人の廟堂小糸りては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

螢岬 東の知恩院とつてはとて

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

ありては蓮華ありて一人の老僧

真葛原

知恩院山門の主人より南園山長樂寺のやうり

戒を松とくこれのそとをほく系小風さつり

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

けおの葛鎮和尚坐禪石のう小坐して詠する

長樂寺碑銘  
東山勝景。大悲靈境。遠臨神州。通現鷲嶺。花穠雪香。  
竹苞月冷。片石維貞。勒銘傳永。

平信好撰  
大江資衡書

道遺院

西園寺  
道智法師

勝工阪本新補



歌仙堂

又の名曰大雅堂とて雙林寺境内の山ありて堂の名を歌仙

別室に觀世音と安坐を金銅佛長八寸五分計之

堂とてつらねて此燈籠とて凡流の人ありたりわが冷泉家乃

以て書畫を善と名無名字貸成とて大雅堂とて今より十と

あまうと名のひうと設せられた其門兼其趾と空しくせんも

古(靈)とて天哉翁長嘯子とてふもひ歌仙堂の古た板礎とて

あとの坊よりひまると基とて小建て樓の上とて下とての延教

て歌仙堂の舊蹟とてむねの尾ふり大雅堂とて篆印を尾造りと

々々星之中尾氏とて人具材名の用とて建らんとて貸成を洛の

西陣とて所の存せ有る中頃二條の多々樋の町とて聖護院乃邑

小の又知恩院の西より代々町小廬とて橋とて小祇園の南葛草居小後と

とて宿坊の澤光とて葬らる其墓碑に大典禪師の書とてとて小載と

故東山畫隱大雅堂周書

池貸成歿矣既表墓焉而未銘也以為請余嘗觀貸成為人

蕭散不以寵辱驚心善與物和而不苟合紆志外疎放而内實

修檢與人交謙損而不阿簡於禮法當往不任當答不答而顧

諸義未嘗有所失惠而弗望廉而弗劇其於取予得失恬淡如

也平生行事多出於人之所不意於是有時人之目焉貸成生

好遊名岳尤趨學文書無不能而獨長於繪事圖山水尤妙

歌仙堂

又の名曰大雅堂とて雙林寺境内の山ありて堂の名を歌仙

別室に觀世音と安坐を金銅佛長八寸五分計之

堂とてつらねて此燈籠とて凡流の人ありたりわが冷泉家乃

以て書畫を善と名無名字貸成とて大雅堂とて今より十と

あまうと名のひうと設せられた其門兼其趾と空しくせんも

古(靈)とて天哉翁長嘯子とてふもひ歌仙堂の古た板礎とて

あとの坊よりひまると基とて小建て樓の上とて下とての延教

て歌仙堂の舊蹟とてむねの尾ふり大雅堂とて篆印を尾造りと

々々星之中尾氏とて人具材名の用とて建らんとて貸成を洛の

西陣とて所の存せ有る中頃二條の多々樋の町とて聖護院乃邑

小の又知恩院の西より代々町小廬とて橋とて小祇園の南葛草居小後と

とて宿坊の澤光とて葬らる其墓碑に大典禪師の書とてとて小載と

故東山畫隱大雅堂周書

池貸成歿矣既表墓焉而未銘也以為請余嘗觀貸成為人

蕭散不以寵辱驚心善與物和而不苟合紆志外疎放而内實

修檢與人交謙損而不阿簡於禮法當往不任當答不答而顧

諸義未嘗有所失惠而弗望廉而弗劇其於取予得失恬淡如

也平生行事多出於人之所不意於是有時人之目焉貸成生

好遊名岳尤趨學文書無不能而獨長於繪事圖山水尤妙





芭蕉堂  
新大谷  
門前

大雅堂

大谷

東園

板久



東漸寺

大雅堂

古任

竹林

二九







あてよふ 流るるを来へ 不川やは世と春の 花をてりて その後の心 花は茶ふふ  
はは林風の やうりくむ 聖のなをりふ 花をてりて 人ともぬ 花をてりて  
花とくく 花の遠く 花をてりて 背文 維石不言 謎文以傳

泰山府君

泰山府君 櫻の名之雙林寺の一人なる山東府の庭あり 櫻成範脚花の盛と天帝  
洛東の佳境ありて櫻多し 知恩院の櫻櫻へ夏をてりて世小名高し  
花をてりて

新古今 花も又さうんまいさひ出さるるあさひのさるはくは 殷富門院を痛

花乃 花の 花をてりて 東山 正秀

山王社

山王社 祇園鳥居の西あり 櫻の縁成範脚花の盛と天帝  
強訴の時神樂と振て櫻多し 故小松山王とてりて 玉家物語に云ふ  
玉葉 神代いふ都の月小松櫻をてりて 志賀の古く 前大後忠源

疫伏社 祇園西門の外北の町あり 櫻の縁成範脚花の盛と天帝  
又云は所い文覚法師行齋して平家と呪咀せりてありと云ふ

蓮華院回蹟

蓮華院回蹟 其地前傳ふる人々  
盛衰記云感神院行幸の時時  
祇園の西大門の之後の小家小女のおやたる清平院あり 帝は目小女  
清平院ありて還清の後小女を宮中召しては玉體小返と進らせりて  
祇園社の翼小當りて清所とて居られり公卿殿上人重たふ思ひ奉て

祇園女御を申す 中畧 今の蓮華院と申は彼祇園女御の清所の跡あり  
東鑑云鳥羽院の時寵愛祇園女御八源仲宗夫妻あり 後世継云白河院時代世人  
祇園女御と申は加茂の社司重助ありて加茂女御ともありと云ふ

鷺尾

鷺尾 高臺寺の山號あり 鷺尾山といふ 當山と岩清不動山といふ 中頭  
細川 高臺寺の寄進ありて 村菴茂長老ありて 巖榭院ありて 應仁の終  
文永元年 巖榭院の号あり 今南禪寺の内ありと云ふ

雲居寺回蹟

雲居寺回蹟 拾遺抄云祇園の南花園の向あり 櫻多し 今も櫻あり 下壇の地  
著聞集云 神祇伯親定 櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ  
請して供養ありて 具布施ありて 櫻寺といふ 遺跡ありと云ふ

唐澤

唐澤 唐澤ありて 櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ  
千載 唐澤ありて 櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ  
膽西上人 唐澤ありて 櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ

天満宮

天満宮 高臺寺の鎮守あり 初上壇の地あり 近年ありて 櫻多し 櫻園といふ  
北政所高臺院殿あり 櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ

とむ月とてそのまふ小松とてありて 名のまふりたりと云ふ 式部集巻末  
いふに 櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ 櫻多し 櫻園といふ  
櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ 櫻多し 櫻園といふ

とむ月とてそのまふ小松とてありて 名のまふりたりと云ふ 式部集巻末  
いふに 櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ 櫻多し 櫻園といふ  
櫻多し 櫻園といふ 櫻寺の應仁ありと云ふ 櫻多し 櫻園といふ





こころ  
 づね  
 小萩  
 ちん  
 中とかの  
 小貝  
 とき板

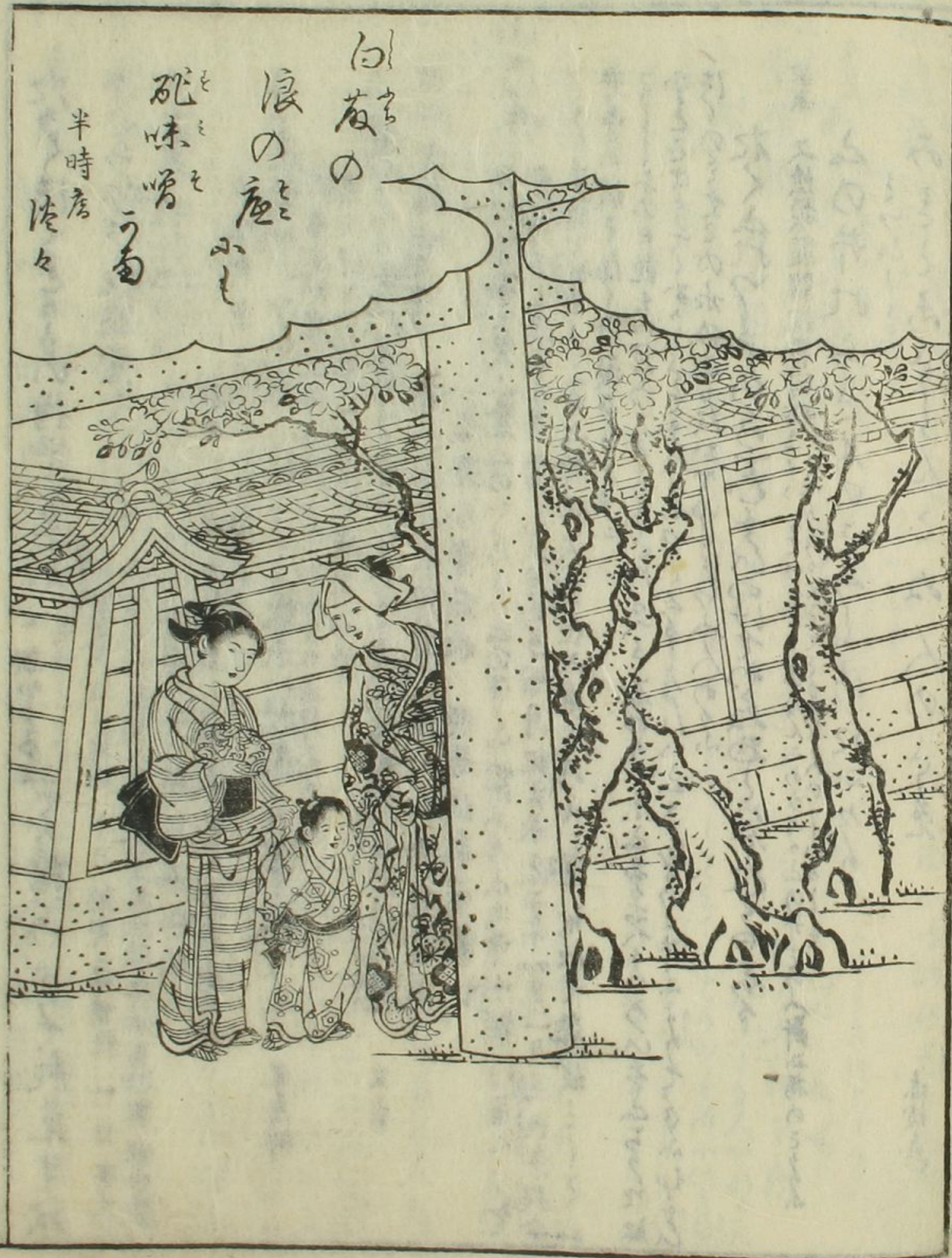


高臺寺  
 萩の花  
 西行法師宮城野の  
 萩と表法和尚小なり  
 其萩今小萩つるく  
 と草庵ふうつし  
 侍し花の次具園乃  
 人ささり侍し  
 庵と  
 ちんたむ  
 萩の花  
 宗祇





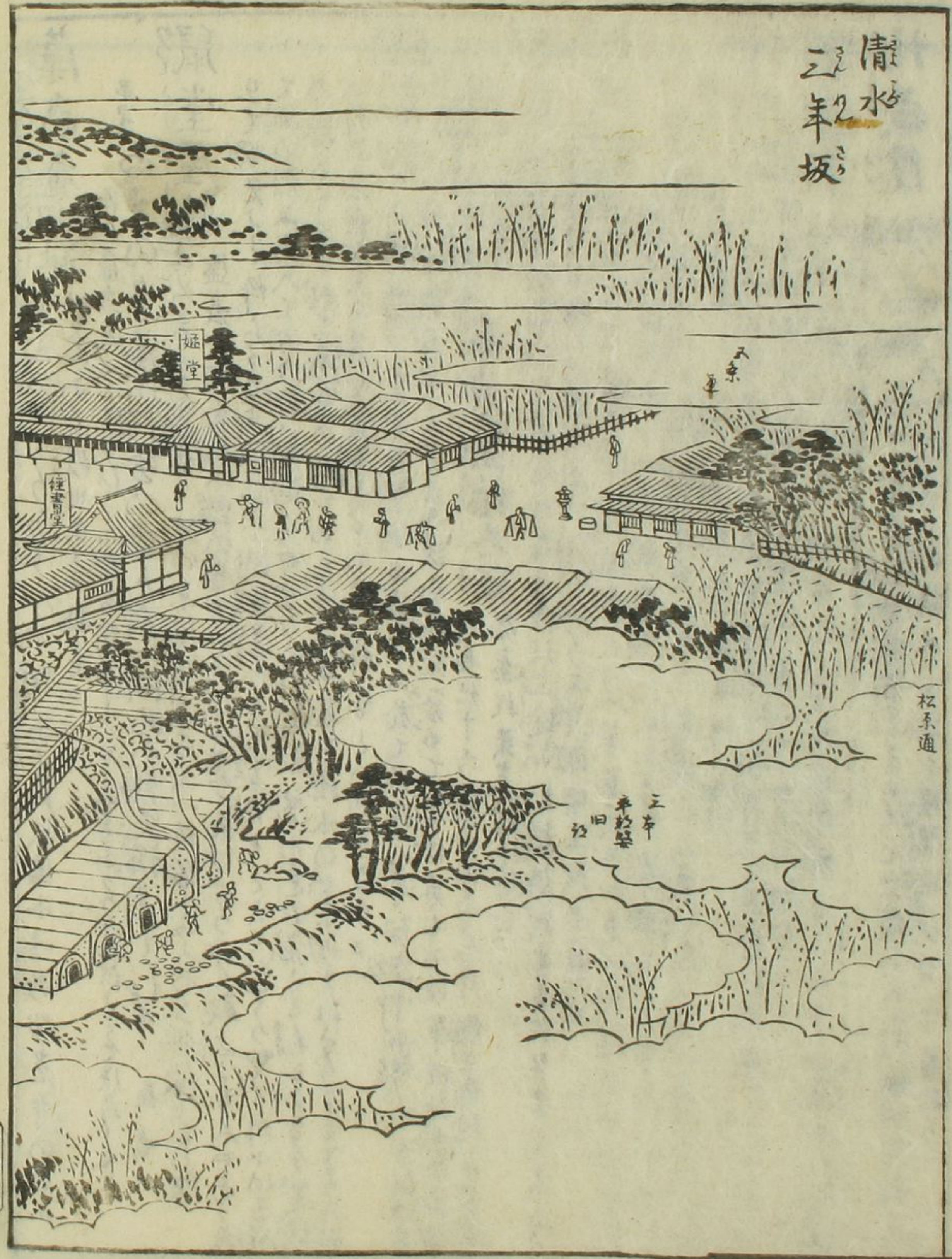














清水隨求堂

清水寺西門の内あり本尊隨求尊天竺佛標佛の胎内安坐  
臨土の多門吉祥の二天を左右に享保の初盛松阿闍梨の建立  
車轉橋 田村堂のおあり実には橋ありと今二年坂の下の一院乃溪川あり  
至は道ありては溪川小架と橋ありてはむらひは溪川ありて大いなる橋あり  
形り著明集ふもとへり所習長壽橋も是なりん

尾振谷

清水の南清水寺の向東西に通る谷あり清水寺境内窺舟室の中  
尾振谷 南の限尾振谷の文あり

南藏院

麓の下あり本尊虚空蔵菩薩へ聖徳太子の化坐像一尺餘南院む  
乃母阿比丘尼乃草創之後世あまうりて  
は所ふ鮑貝の酒器ありて茶客其大器少く酒飲一息中小飲とては  
最一と酒樽ありて其名と記を故は酒器の名と後撰とて

九重丹楓

清水寺高倉院帝陵の側あり帝紅葉楓愛しや入る平家  
物語小見へり 後西院の清製養筆のわが清宗寺あり  
はそを紫楓愛して

御製  
ふれ方のままふのわが紫をさるねをれりてり

秋葉社

日所山上あり高倉院を紫楓愛しや入る平家  
秋葉社 幕本巻小曰秋龍田山より奉たりて  
秋葉社 神といふと云世俗 獅子口 此と秋葉社月橋のうりりては  
秋葉社 二尺坊と云へり獅子口 獅子口の形ありては名あり

要石

清水寺高倉院の庭あり石上より 覚明水 當寺板石の下あり元  
二千坊の内あり人々を坊覺明世と道とてき小位しりん

六條院

帝陵記云東之清和寺あり詳なり云云六條院云治承五年正月  
十四日新院高倉 己崩清和寺今夜邦細郷乃清和寺の小堂あり  
後清一寺の作是六條院の清墓所の小堂ありて帝王編年記云安元  
二年七月十七日新院崩御は清和二年十二月六日六條院と号は是二條院  
の皇子日乙三日乙丑東山の  
色小紫を奉侍  
花の以て六條院傍正清和寺の山莊ふるとはりて  
ゆて後期花といふ事ありては

延年寺

清水寺六坊の側より西大谷に在る細道之山道の南谷をまを  
延年寺 延年寺谷といふ盛衰抄曰延年寺田村麿鹿と撰て此ふ本  
東鑑曰建仁二年七月十六日在東の清和寺等と推遣し東延年寺小於て播  
守頼全に窺ひたまは殊盛衰記云清水寺合流永万年寺僧  
今ハ防を我ふ力なく赤糸地延年寺の二つの閑道へを為行々  
本願寺傳記云東山の西の麓を延路のありて延年寺小華しやる  
長按る親愛聖人清和送の附ハ早 寺類廢して無常所の地名  
る俗稱し仁と謂傳入るん譬ハ今万壽寺通と万ジャウジ又を建仁  
寺町坂ケン子町といふが如し

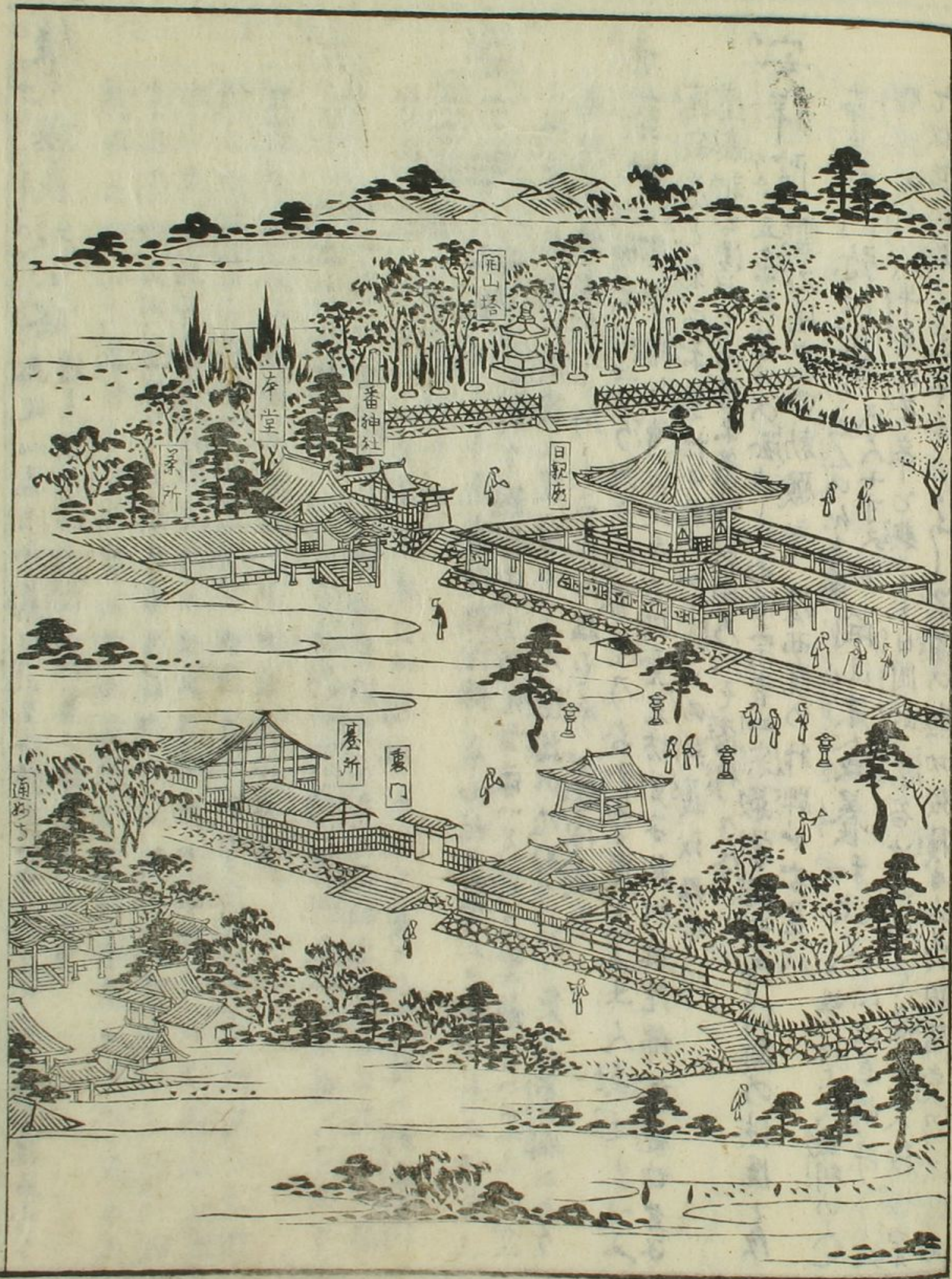
日親廟塔

真筆の題目塔坂塔出に今廟所あり日親ハ姓ハ平氏長亨  
二年九月十七日八十二才を寂は法義の爲に苦辛して  
世小銀冠日親といふ

通妙寺

日所あり法義宗妙傳ふ属以同基日惣上人寛永年中草創と  
是より二町計東小迫年妙見堂依建る











六道迎鐘

聖皇寺あり毎年七月九日干國盆會小出諸人小撞し聖靈遊  
て堀と松を以て慶後僧都去と成鑄て土の埋しぬ三箇年成経  
て堀と松を以て寺僧小成して入唐し竹のぬ其後別當少あり  
法師二箇年成待にして堀と松を以て其聲を唐土小用へり  
僧都大に嘆して曰は侍人の擡は小自微小鳴さんと云ひ侍人早堀と  
と半乃口惜はよと云ひ侍人の擡は小自微小鳴さんと云ひ侍人早堀と  
古事談或は昔物語にも見へり今もは侍人の遠境小響く半化し  
並ひ希代の靈を尋り  
今昔物語云干國盆の日まのしと女の祖のよめと云り多層の衣板  
盆小入遊系成り人小成して愛宕の寺小持系と云り  
拜に位く去ふり人ありしてそれと云れと云れと云れと云れと云れ  
かくそ書と云り

多てまのしと云のうらふと云りまのしと云の世の佛も

城東寺

建仁寺町松原乃南あり本尊六葉佛と安曇後教大師の化  
應仁の乱後はる傍に壞して佛小消首計疎ありと後世化して  
今寺より乃傍と云り小堂あり初は天台宗應仁年中小禅宗と云り  
南禅寺楞嚴院の兼帶所と云り

平教盛卿家

前編ありと云り  
平家物語云宰相教盛と云り入道相國の侍所所ハ六波羅門の賜り  
たのつれハ門脇の宰相と云り

上行寺

五條建仁寺町乃東あり法義宗開基ハ日秀上人本願ハ織田元京  
助信定慶長十六年の建立之初は比小僧ハ日經上人化宗と法論  
一騒動あり人足小云り公勢より慶長十四年二月廿日日經上人の化宗五  
人と共ハ六條河原於て刺刑小なり故ハ刺寺と云り福さく高き蟹昌と云り

伊澤

牢岸

石岸都傳建仁寺ハ日秀上人一宗乃門俗と云り巡拜と云り所塔巡り  
今牢岸と云り地小敷石あり是獄屋小用り所と云り

獅子地藏

小野篁の化之孫の伏見谷左近と云り者ハ多像成歸依し  
時地蔵を獅子と化し遊小命と云りけり

劍宮

新羅野の南林の中あり系る所  
白山推現第一皇子

雲龍院

泉涌寺の塔中之泉涌水の上あり佛殿の本尊某師佛坐像二尺又寸  
後老巖院後圓融院二帝の宸敷と安曇又日所後宗後光教院

來迎院

日所方丈の小あり佛殿の本尊弥陀二尊佛運慶の化又荒神と安  
弘法大師の化也院初ハ弘法大師中興ハ智鏡和尚あり

獨鈷水

荒神社石燈の傍あり弘法大師獨鈷水  
當院の智鏡和尚宋小入て懇志ある蜀の隆蘭漢末朝の初止宿あり所あり  
信長公大坂乱戦の時甲冑の上小多々念珠小蓋と住持樂南小賜小今尚も

安樂光院

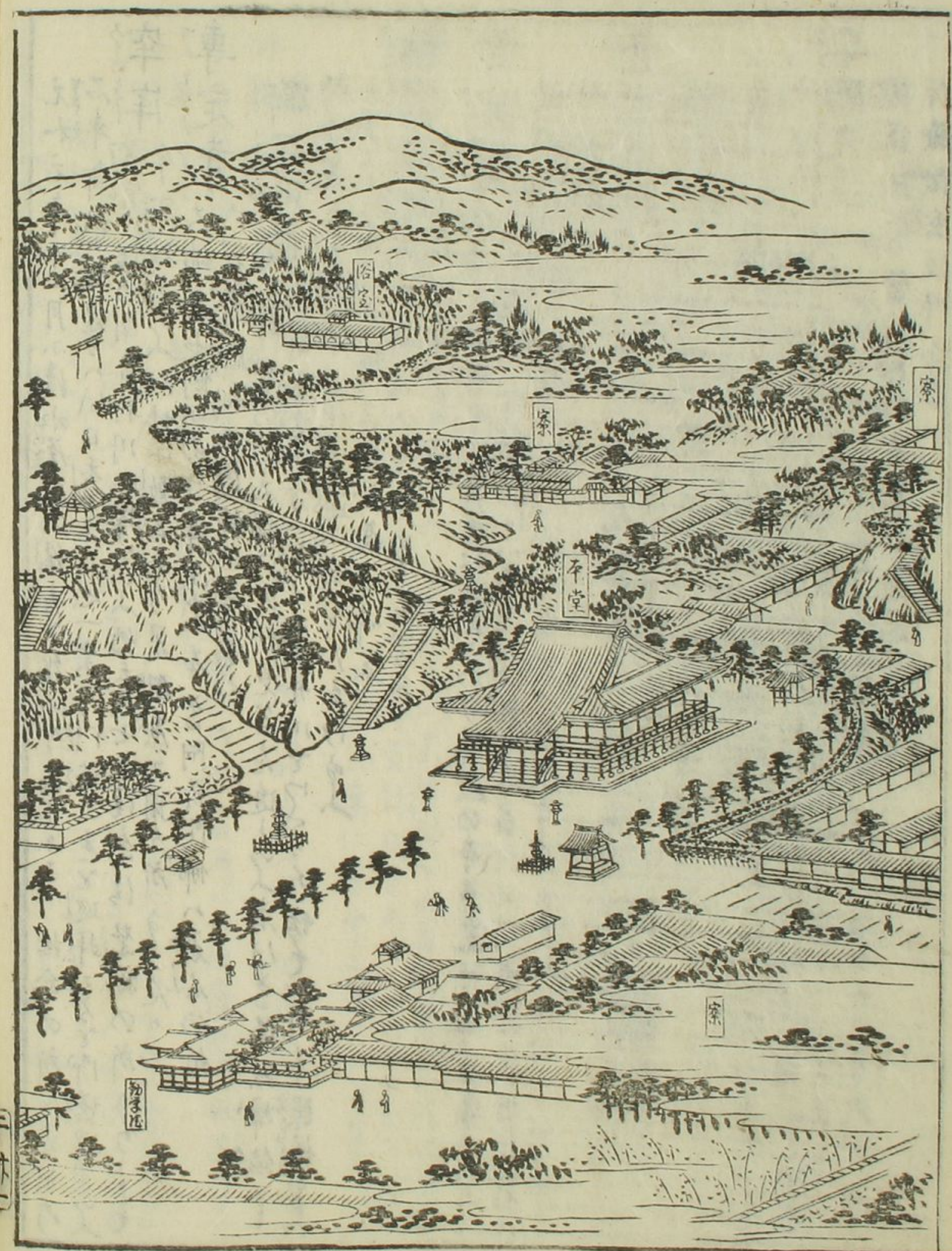
日所來迎院の西あり本尊阿彌陀佛初ハ上京小川上立賣あり  
今安樂光院と云り足持明院基賴卿の宅之後世寺と云り中興ハ

誠蓮法師

當ハ再興と寛永年中あり  
位敏微玄法師あり

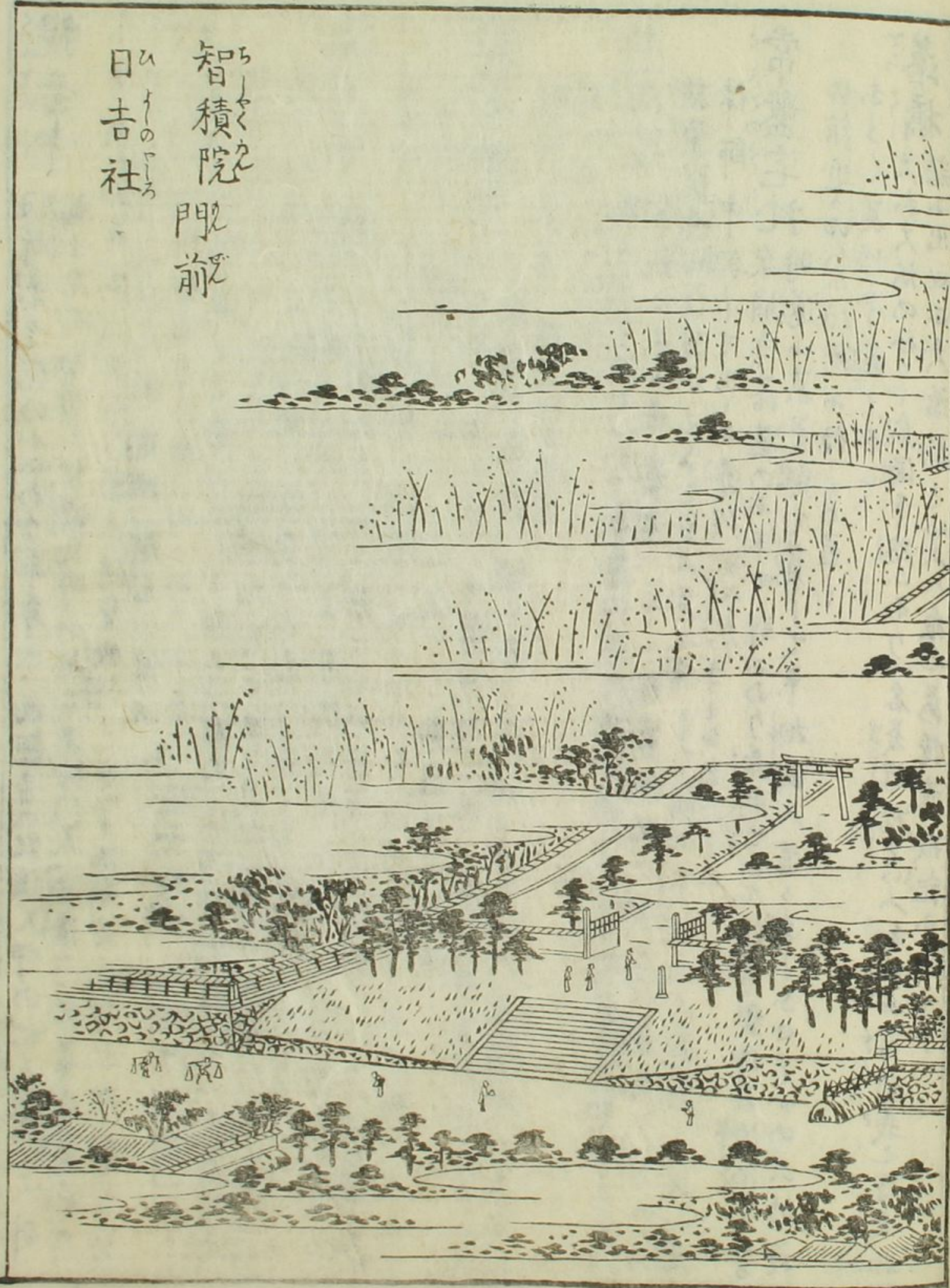


智積院





智積院  
門前  
ひの  
吉社





觀音寺

日所奉建院のふあり本尊十一面觀音弘法大師の化之像二尺計  
脇士九不動明王智證大師の化右毘沙門天運慶の化當寺奉創乃  
本願の山本大花のり花山法皇興行のゆゑ西國巡礼乃礼所觀音の  
具一貞少して世人新慈祥記教と稱す

善能寺

日所觀音寺の乾二町ふあり本尊聖觀音稻荷大明神老翁の化  
て化所之之像二尺三寸脇士九稻荷大明神稻荷老翁の化  
形弘法大師の化より右弘法大師立像二尺計稻荷大明神乃化より  
傳之は本尊を初八條二階堂の安坐する所より前編ふ足へより

戒光寺

泉涌寺總門の内ふあり本尊釋迦佛立像一丈六尺傳之頭面を  
自後に出現あり洞心曇照和尚空國より持来して具化の運慶  
化よりなりと當寺初に徳隈八條ふあり今戒光寺町と云其後上京所  
ふより正保年中今の地を掘りて泉涌寺小属に

新善光寺

戒光寺の南ふあり本尊阿彌陀佛一丈二尊信別善光寺小日  
後陽大宮通一條の小ふあり  
後世よりふあり

悲田院

新善光寺の南ふあり本尊阿彌陀佛立像二尺三寸計當院の聖徳太子乃  
草創之云帝養老八年小鏡寡孤獨の輩及び病者と救らん  
施薬院悲田院取いと云之ゆへ人星を推して後世に然上人再興し又如周  
律師中興して云小遷に記社あり泉涌寺の

常盤宅地

泉涌寺落橋の小半町計ふあり義朝亡して後常盤清が源伯と云  
時遂小其災難と費して平相國入道と奉とせりかの六條  
の館通ふゆへに所ふあり也是

落橋

大木大流のむく泉涌寺路ふあり一名落橋と云幻化云常の義之源氏物  
語不出世小大落橋といひ飛之落橋薩戒記不出と云

瀧尾社

大弘大後一橋南爪ふあり系神藤社の属社より額瀧尾社篆字  
例系六月廿二日

五葉辻

瀧尾社の南乃辻といふ是則いふへの泉涌寺門前之後中記云仁治  
三年正月廿五日今夜四條院清葬礼經五葉辻入御泉涌寺云云

三聖寺

東福寺小門の内花ふあり第一門小塗剛力士の像安長八尺計  
運慶乃化は像靈驗の事大友興廢記小載と初に冠紫小  
し之は門の中央ふあり元ハ獅子の形之乱世小破碎に今尚石小獅子  
毛の紋あり牛取畜之のさく云と来りける小籠り内ハ落橋掛窓と除

愛染堂

日所の西街道の東側ふあり本尊の康慶の化之日所小五大尊  
故安坐の當寺ハ東福寺より初之の建立ありて天台宗あり

万壽寺

三聖寺の内ふあり九重山と号し初ハ樋口通万里小落ふあり永亨  
六年開縁の後ハ池小ありと云五山の一負之同祖覺空禪師

後成御墓

東福寺塔頭南明院ふあり又淨如尼墓あり

自然居士塚

東福寺東南のふあり或書小曰自然居士ハ和泉國日振郡自  
然田村の産より故小名と改始ハ法相教學ハ後禪宗と云  
つゝ南禅寺大明國師の弟子と云聖一國師の爲小孫弟之東ハ  
福寺の龍吟房ハ大明國師乃本卷之けむりの答小自然居士と號

西寺古鐘

東福寺ふあり西寺ハ守敏僧都の  
寺あり

海藏院

東福寺塔頭之老松のふあり虎國師の住一所之磧礫集云  
海藏院ハ虎國師自筆の之亨釋書あり



梅雨  
 白屋黄梅雨  
 蕭蕭撫枕寒  
 南山朝暮色  
 不作出門看  
 服元喬



郭公の名所の  
 新徳澤 劍  
 のかきりか  
 いそ  
 新古今  
 さみらの  
 月の  
 つきあはれ  
 こ屋ま  
 より  
 云々  
 郭公  
 定家

東京大学蔵  
 東洋文庫蔵  
 伊澤



月輪

東福寺の東より泉涌寺に至る所を兼實公の山莊之月輪右大尼と号し東福寺四至の文云東ハ月輪殿の極路通と限ると云

月輪といふ所はまうりて之捕魚を養ふと云云庭の菘乃

花散りてあそびしをいふなり

菘の花盛とすはをいふなり

日 月輪の日は桂乃宿とすはゆをいふなり

光明峯 東福寺方丈のむら 光明峯寺趾 東福寺 偃月橋乃奥ありあり

光明峯 昂宗院の南谷といふ 光明峯寺趾 東福寺 偃月橋乃奥ありあり

毘沙門谷ともいふ本堂は今東福常樂庵の厨上あり 聖一圓師年譜云建

長四年二月廿一日藤丞相道家公亮と年六十六四條院の外に老の筆さす

光明峯入るお橋政の墓所とす

地藏堂 三聖寺お町あり立像八尺計張子の像之近年遺失は又版内

法性寺 拾芥抄小曰九條河原系ありと今據り九條里乃東那り

法性寺 忠平公之天曆三年八月八日薨と昭宣公の長男ありて謚號貞信公

法性寺 東福寺小門のありあり二面千手觀音と安曇長一才八歩版内

法性寺 安曇長一才八歩版内

法性寺 辨財天頂二十五面ありは本堂といふ一は法性寺諸尊の内之の寺荒

廢ふなりて曰號ふより再興と洛陽記あるなり

家集 ちりり花をいふなり

羅刹谷 東福寺と泉涌寺の間谷之元亨釋書延曆寺源心傳ふ出たり又

泉涌寺八景の題小羅刹谷あり又東福寺旧圖ふも是なり

藥師堂 大和入道三橋小爪あり本堂茶師佛あり坐像春日の仇いあり

遣迎院 日街三橋の南二町計東方あり本尊阿彌陀佛あり

安倍晴明塚 日所清堂の南あり

毘沙門堂 遣迎院の南一町計東側あり

田中社 日街三橋の南二町目西方あり系社稻荷五座の一神なり世人

稻荷社母乃社ありといふ古ハ田野の中あり故ふ名なり

古今著聞集 稻荷社母乃社ありといふ古ハ田野の中あり故ふ名なり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

九条あり

拾芥抄あり

長一才あり

版内あり

法性寺あり

二廿五あり

あつた言為世人といふは法性寺の花はふぬりて

十首ありといふなり

家集 ちりり花をいふなり

原氏物語の巻

東福寺と泉涌寺の間谷之元亨釋書延曆寺源心傳ふ出たり又

泉涌寺八景の題小羅刹谷あり又東福寺旧圖ふも是なり

藥師堂 大和入道三橋小爪あり本堂茶師佛あり坐像春日の仇いあり

遣迎院 日街三橋の南二町計東方あり本尊阿彌陀佛あり

安倍晴明塚 日所清堂の南あり

毘沙門堂 遣迎院の南一町計東側あり

田中社 日街三橋の南二町目西方あり系社稻荷五座の一神なり世人

稻荷社母乃社ありといふ古ハ田野の中あり故ふ名なり

古今著聞集 稻荷社母乃社ありといふ古ハ田野の中あり故ふ名なり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり

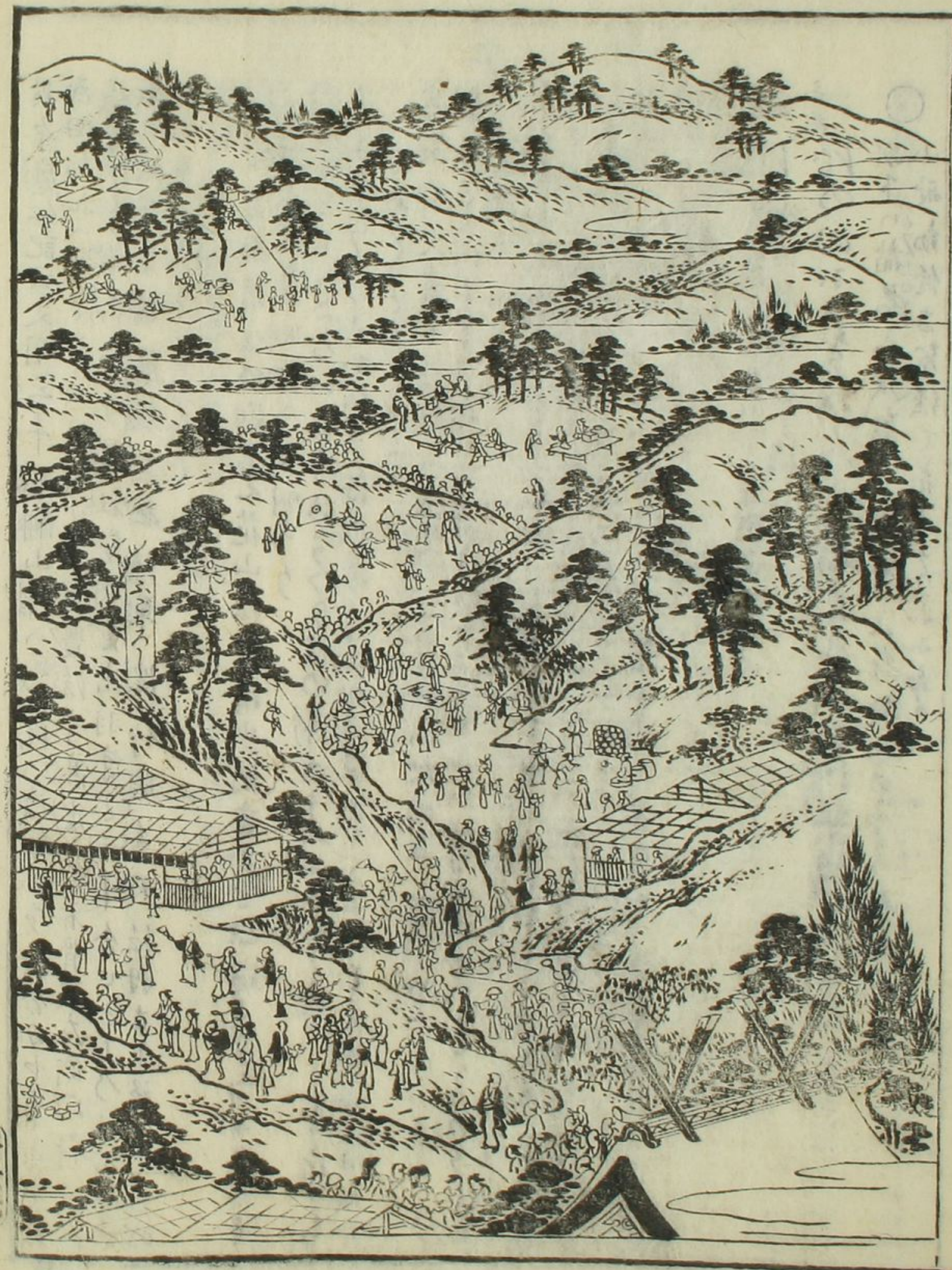
ちりり花をいふなり

ちりり花をいふなり





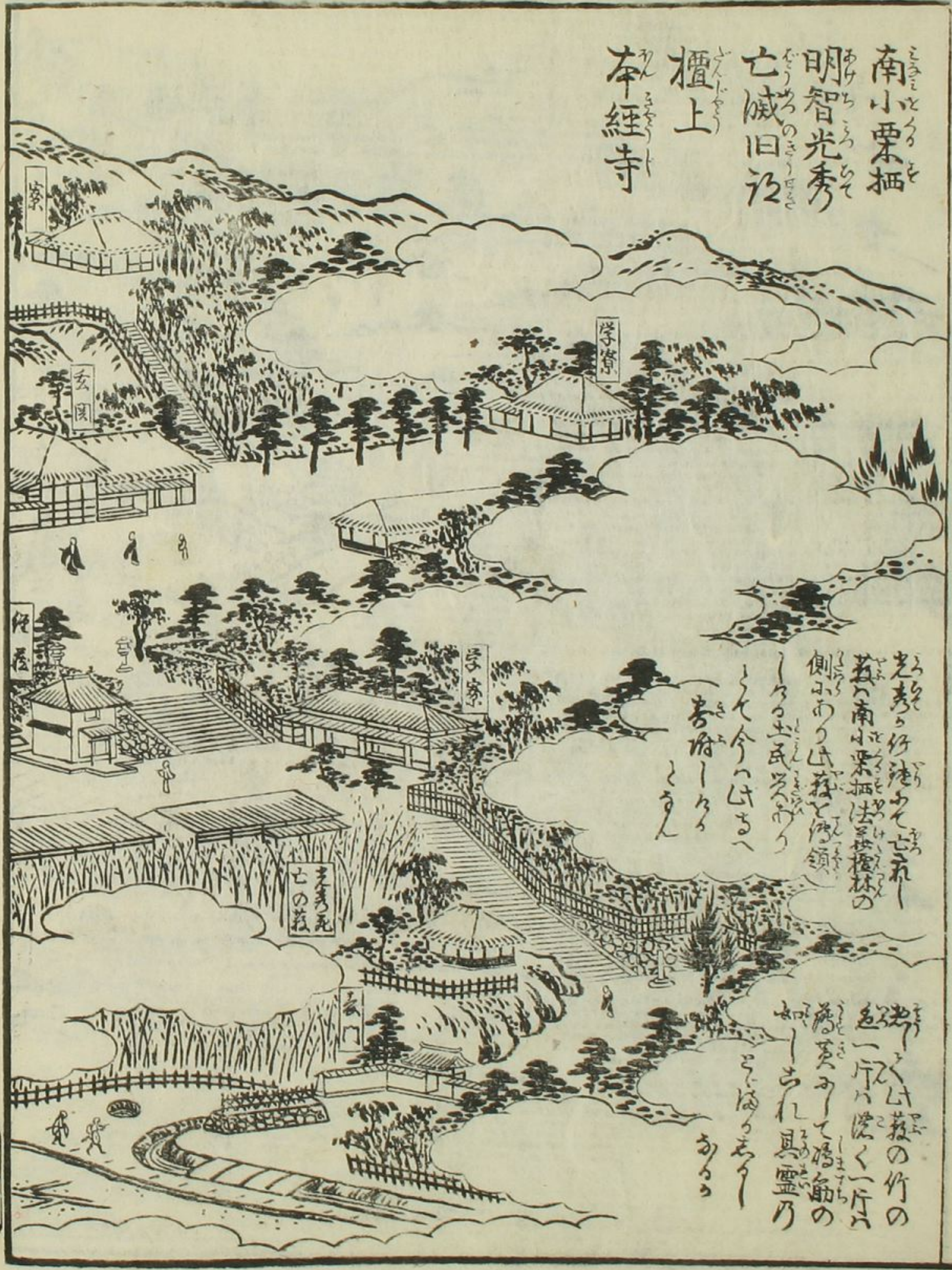








南小栗栖  
明智光秀  
亡滅旧乃  
檀上  
本經寺



光秀の住居を寺に  
改め南小栗栖法華檀越の  
側ありは在り佛領  
しる土民の  
とて今に在り  
寺あり  
と云

光秀の住居の竹の  
色一軒は長く一軒は  
薄くして佛領の  
如しされ其靈乃  
と云はる  
あり





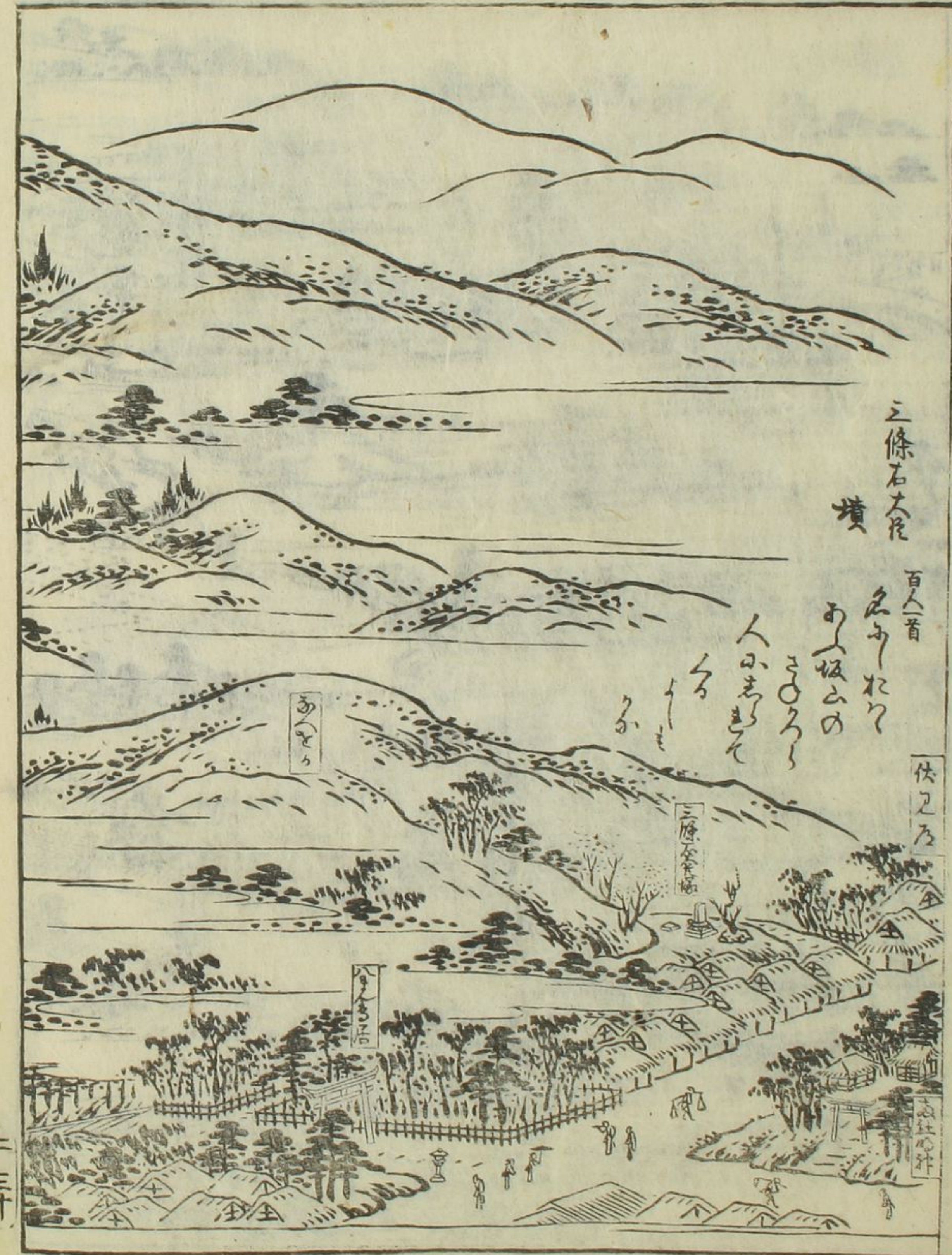
伊澤







勸修寺  
八幡宮

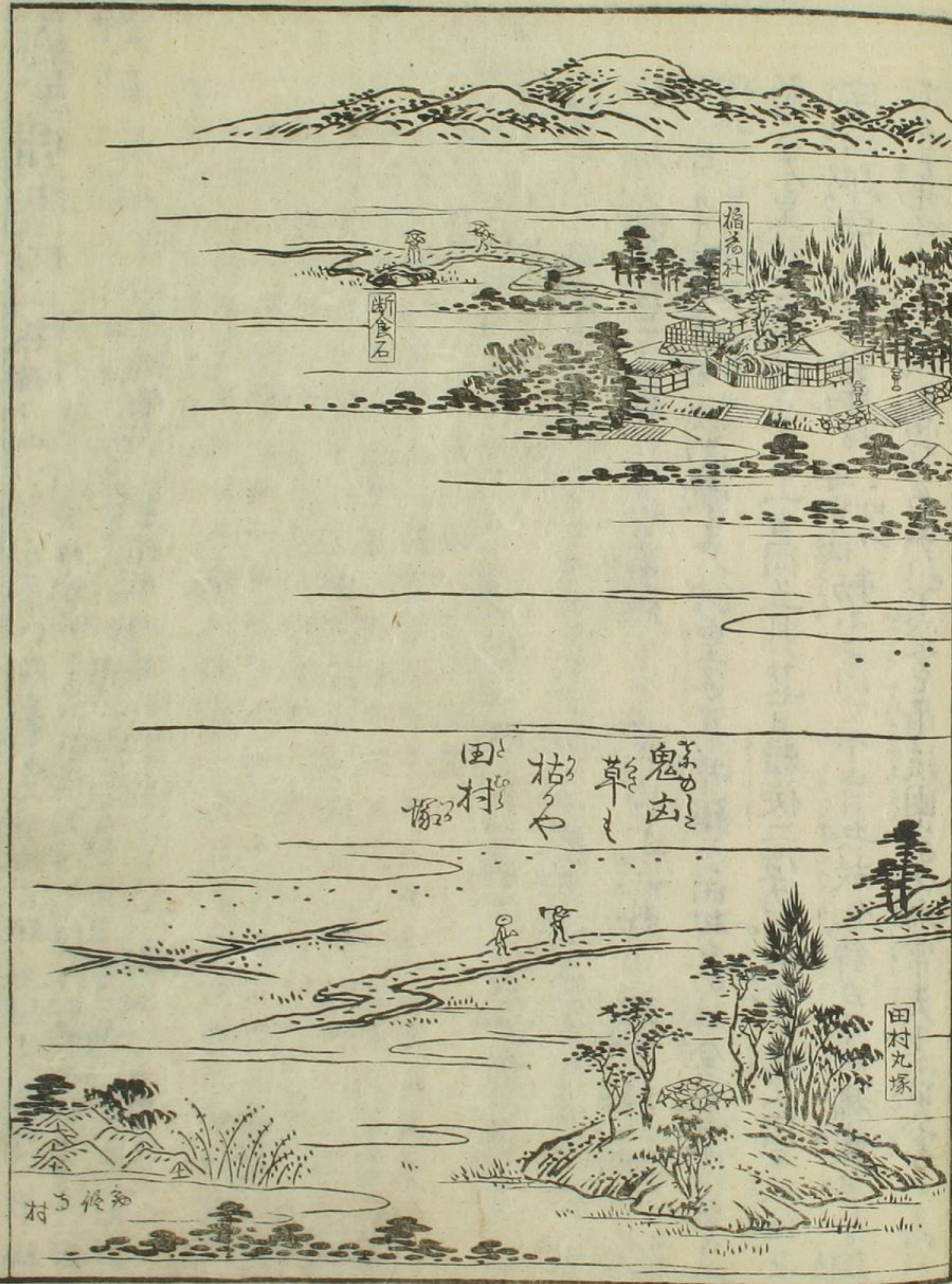


三條石大塚  
墳

百人首  
名所なり  
町坂の  
まの  
人志  
ふ

伏見





鬼の  
草  
枯  
田  
村

村  
子  
後  
知



花山稻荷社  
良雄断食石  
栗栖野  
田村將軍墳

花  
山  
村

の  
そ  
村

栗  
栖  
野

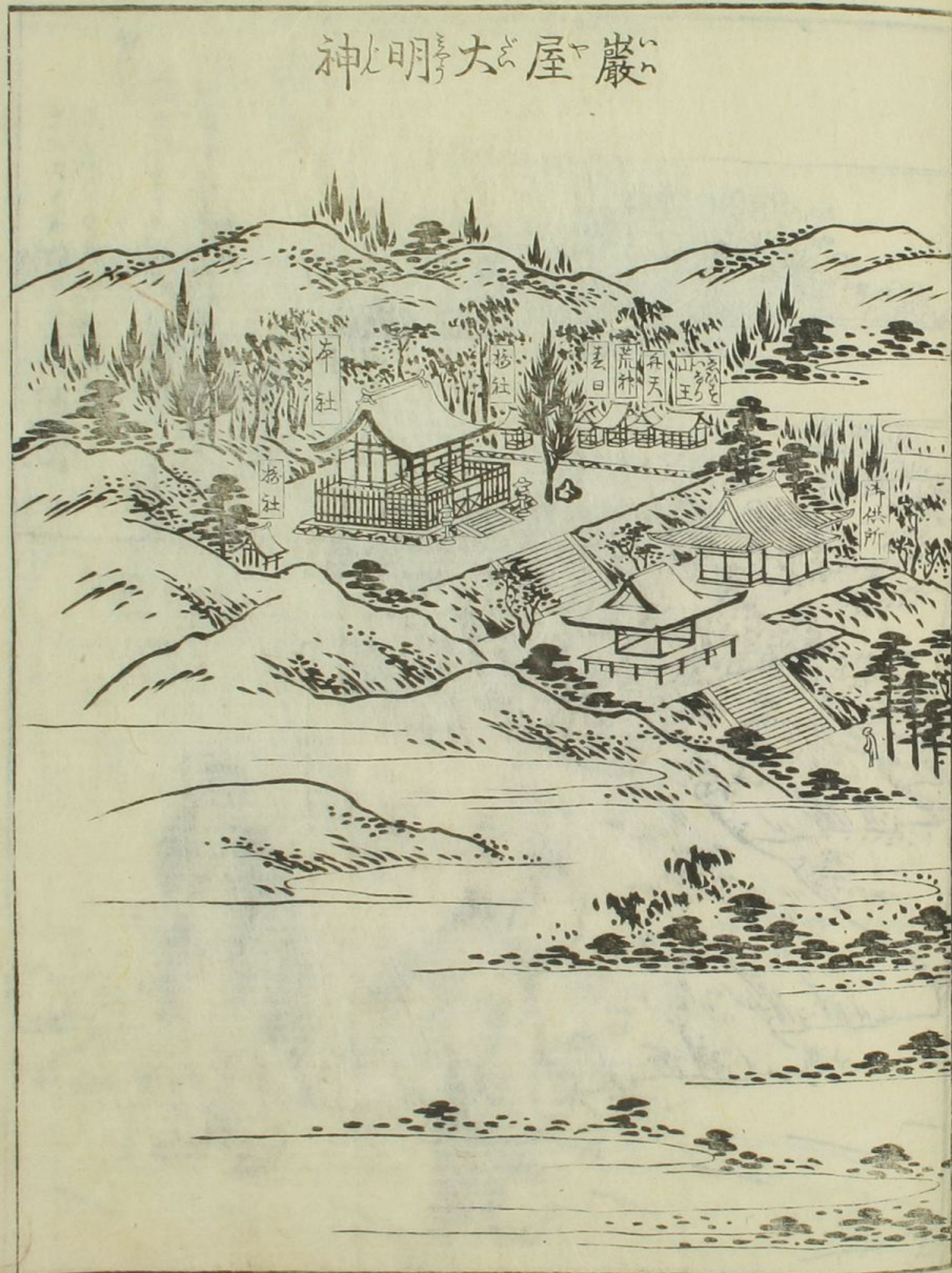
山  
長







神明大屋巖



山科大石古蹟  
 題大石氏故居  
 忠精聞天久  
 英風今尚存  
 月明清露耀  
 此夕似招魂



西山村







小野隨心院



高工阪本新浦





大宅  
岩屋明神



とよむて次第小からふれゆくかともこをふい群ふをささくく人多人間乃る

萱尾明神社 醍醐の春日孫あり土人産屋神あり  
醍醐の九月又日いふは聖者の徳あり

腰帯地藏 萱尾の西あり奉尊の石基の長八尺

大裡芝 日孫村の良又町あり日孫家の別荘乃旧地と土人官家ゆへ

外山 日孫村のむのふとひは所小鴨長明方丈石あり

天神宮 御祭九月晦日と

巖屋明神社 山科大宅村のむのふとひは所小鴨長明方丈石あり  
山科神社二座土人生土神と次例祭九月十六日神樂三基

興福寺旧蹟 山階寺と改む  
編年集成云大織冠鎌足公山階陶原館改てささきり時齊明天皇二年之

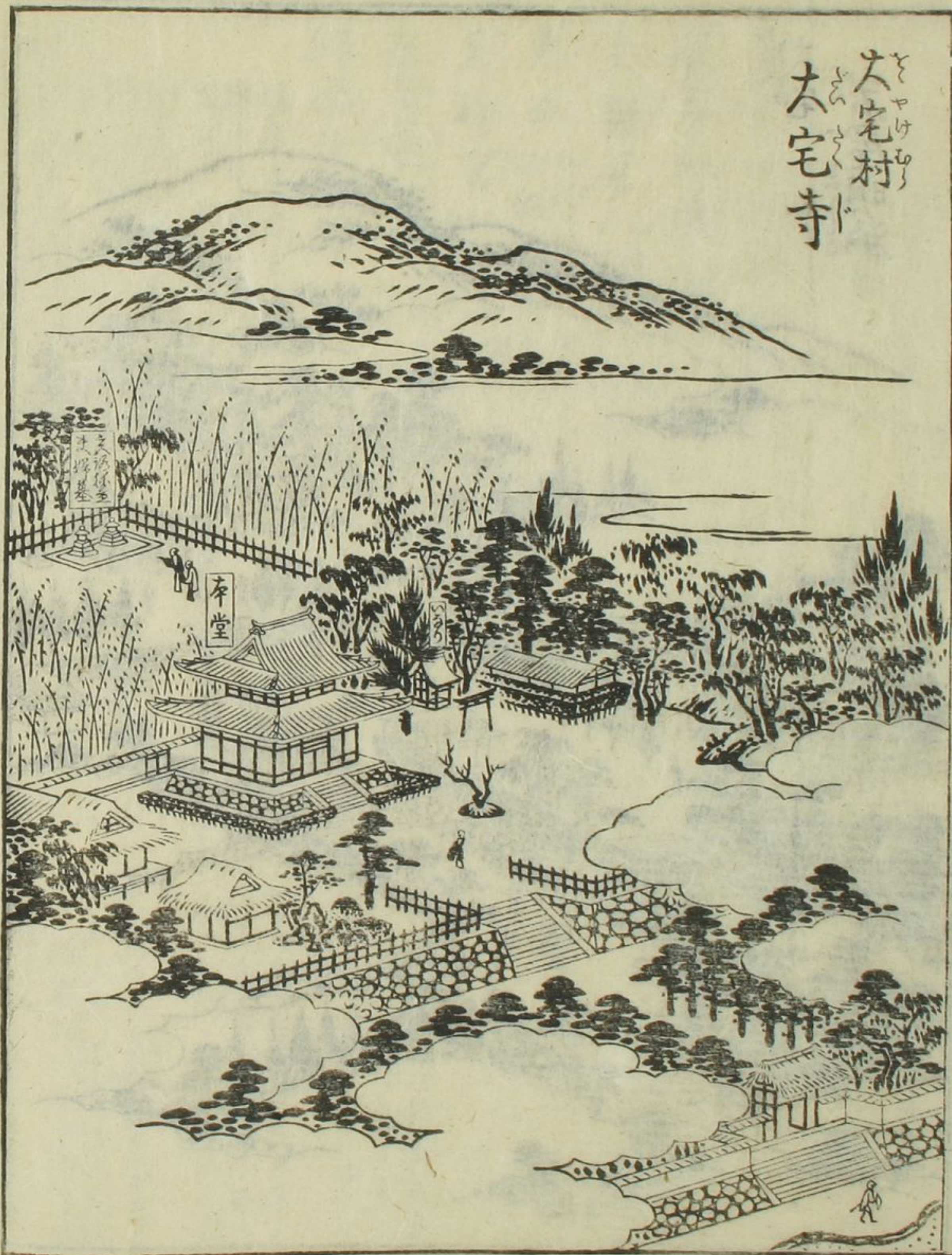
興福寺橋 日所街道の中ふとひは所小鴨長明方丈石あり  
續日本紀云神護景雲二年山階寺二行幸し天武帝白鳳二年之

佛足石 山あり大宅所集拾芥抄曰妙見寺王城

妙見寺 岩屋明神のむのふとひは所東方の妙見あり



大宅村  
大宅寺



音羽山

顯注密勸云相坂園の城と遊ばしの境に音羽山ありて其の山に雲れあるもの云は

古今の歌に西の山階あり。麓の山。室におふ海と

貫之

夫木 あり神の音羽乃滝やはさるる人園の六の久そられ

中務親王

新後撰 流津流ふ流ふ水音羽海せくくもるれ五月雨乃

為氏

日 杖ふくねらゆく海ふ衣う音羽の雲や夜そるる人

頼泰

名寄 郭公いそき音羽音羽のぬりて雲にやとるりせ

藤原成房

牛尾山

堀川 牛尾山とて法蔵寺といふ観音堂あり

佐理たま

百首 嶺ふた牛の尾ふいり人を柴車あせらるるあり

新泰

布引籠

牛尾山ふあり高之丈余幅之間計

新泰

鮎ヶ淵

布引籠の淵に二十回計の淵ありて其の淵に

棲ぐ人氏を悩とまねたるとと被田井氏の先祖に伝へたる

東清水寺の音羽籠一日一夜血涙をぐれ来りたる人との大地の尾と



牛尾山法巖寺



又ノ巻

仙人窟

池子口

經石

山本  
三三七



天狗松

皆杖石

七まつり

立石

大の口

龍ヶ岡

布引



小山村  
白石明神



彫工 阪本新浦

此の芝生少く焼捨るる今所と焼芝とて景細く我客少くつて後毒  
地乃瘴氣小あつて命も危ふくことへつて所小香深の衣とる異僧忽  
金一作りぬををへ小牛尾觀世音の應驗ありとて服茶とて  
秀此靈叢の功たためへんを極罪の者十人と出でて大毒板あ  
へ内八人といふ茶取服し免二人といふと用はの八人の都へ發せ  
り二人の即死を足より茶名の上五様の文字と冠りしとて金屑  
号に是をの蘆錫之今も厨子真村四井氏の支族に授代はくさり  
世に弘む

若宮八幡

白石明神社

白石菴

蓮如上人墳

實如上人墳

若宮八幡 若宮村あり此所の生土神也後例案に九月日ハ新小より替り  
白石明神社 小山村あり東のふの下小一の白石あり具例小社あり  
白石菴 肥後の人菊池藤氏一源統禪師行狀云禪師禪ハ會統字ハ一源  
とて白石の村祠に隣る故に白石菴といふ  
蓮如上人墳 山林本願寺舊地西小の二水記云享祿五年八月廿日本願寺  
寺中廣大を合葬して墓莊に佛國の如し  
今日一時滅亡は張寺記  
九月十二夜月ありるりりれいふとて  
大宅や木村はく小形山のむりりるる乃月陰 蓮如上人  
實如上人墳 日所東野村のむりり小あり實如上人の本願寺身九代りて蓮如上人  
の八男之志兼法印權大僧都大永五年二月二日遷化也



山科妙見堂



奉贈日本山科實如老上人  
上人德行是問何一箇禪門大丈夫心裏要容天外善此生渾似竹中虛

大明正德八年五月 杭州鐵冠道人詹仲和

實藏小あり大明正德八年八月日本永正十年小當

青龍山白河寺

東野村小あり禪宗妙心寺小屬に本寺阿彌陀佛ハ慈覺の  
流之儀二尺餘 後白河院の宸牌 日帝の石塔あり當り初

三宮明神社

生土神あり 祭社三座昔不合尊左 梅荷右八幡は所乃

阿彌陀寺

三宮本池堂之本寺阿彌陀佛脇士毘沙門不動因祖ハ大僧

花山稻荷社

都頼音坊寛永年中の建立ハ後水帝の勅願所也

梅本寺

花山進分の南小あり 禪宗曹洞中興ハ加列金澤大寺寺

本尊十一面觀音

長二尺脇士ハ愛染不動ハ本尊也 及櫻の観音と号する本

慈覺像位

ハ花山帝の愛妃弘徽殿の御清空しくあり也 弘永十九

乃近國

乃近國ハ靈佛乃觀世音也 所ニ推記乃靈像也 當り

西國

西國ハ靈佛乃觀世音也 所ニ推記乃靈像也 當り

て當寺

て當寺ハ始祖佛眼上人其發櫻乃観音と撰して當寺乃本尊と

故不發櫻

故不發櫻の観音と号するは

故不發櫻

故不發櫻の観音と号するは

故不發櫻

故不發櫻の観音と号するは

故不發櫻

故不發櫻の観音と号するは







阿弥陀堂 阿弥陀堂の本堂と一説に重盛公燈後堂本堂ともいふ  
元慶寺 阿弥陀堂東山一町計あり初め天合宗近報禪宗と改む

本尊薬師佛 坐像七寸僧正 脇士 阿弥陀佛運慶の他 僧正遍昭像 自他坐像一尺五寸

花山法皇像 脇自他共小 当寺の陽成帝の清願して貞観十一年小伽藍

坂草創一紀を配して元慶寺とす いふ所の地は街乃の山小伽藍の寺の内とす

花山僧正 僧正遍昭依俗姓の侍郎良安世り男にして宗貞と号仁明帝

其後慕ふ人として比叡山小伽藍の髪取おろし運慶の室小入て台敷

二年小僧正とある仁和帝遍昭が芳徳坂重とて封百戸を賜ひ元慶寺

乃産 花山法皇の三ゆをありしとくも終るんとせし時

拾遺 まてといひしつゝ花山法皇とす人のまもるる 僧正遍昭

花山法皇 人皇六十五代の帝諱師貞冷泉第一の皇子寛和二年當寺小入て

著聞集云云と云いしつゝ世とせむるものありしとくも終るんとせし時

終時不隨者といふ文とせりしつゝと云いしつゝと云いしつゝと云いしつゝ

遍昭墳 元慶寺の南二町とくり民家の西田向あり

其身一人とくことりめ林乃風 斑竹

東山寺 元慶寺の奥あり禪宗本尊釋迦佛坐像二尺五寸用基大圓宝

神無木林 此諸神明神の清祿所なり 鵠坂 此物の東今平池みて坂を

蟬丸塔 土人の口称なり実記詳なり

杖風小あひく海芽のときとく白あしの表世中 蟬丸

世中 世の中をいふ

四宮河原 仁明帝第四宮の回蹟なりゆへに名あり

小町 四のこことせしつゝつゝりて風づくに

小町 のりつゝの四のまの系をたしてきり人のねとく人々

順徳院 諸葉山

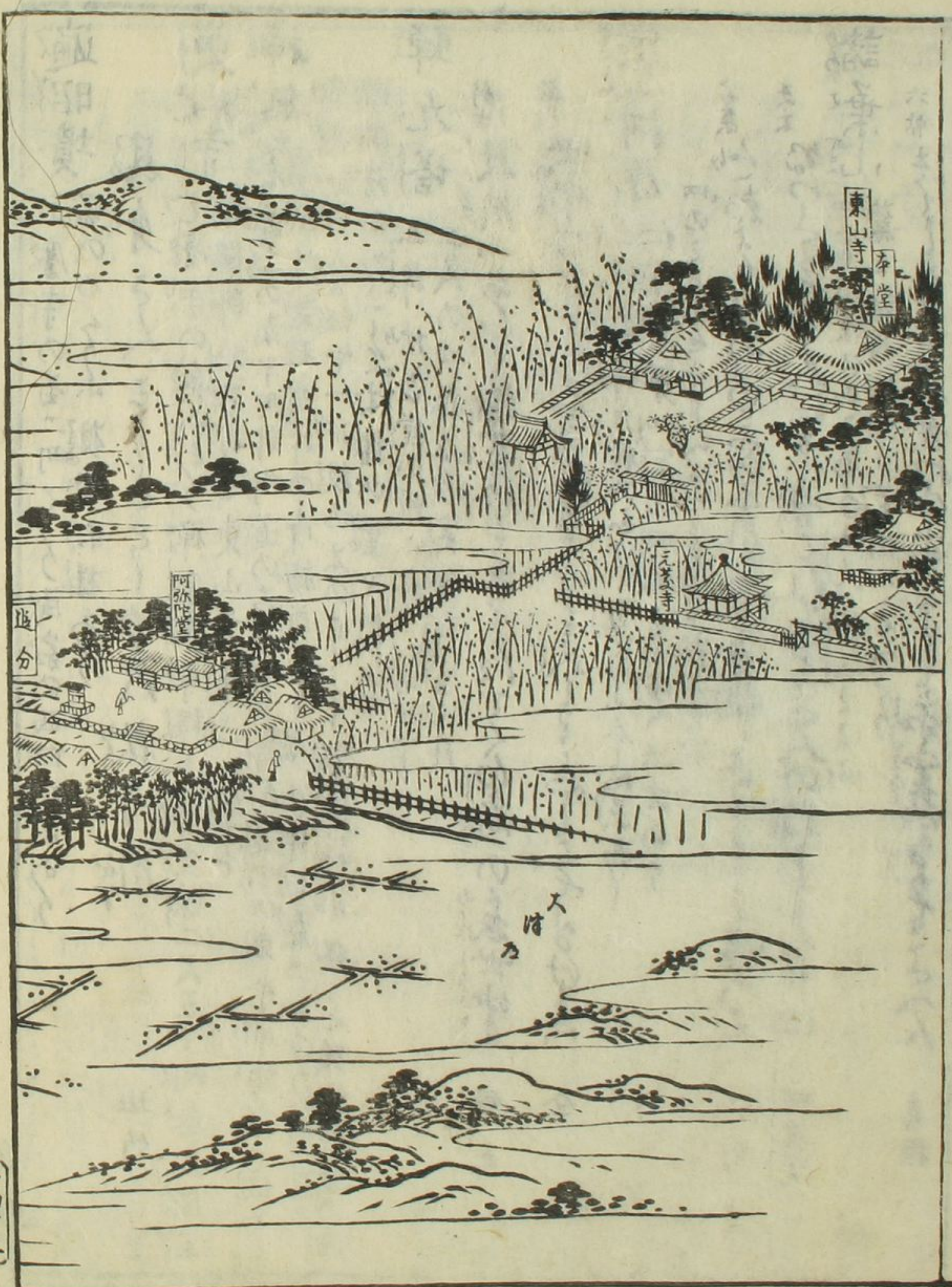
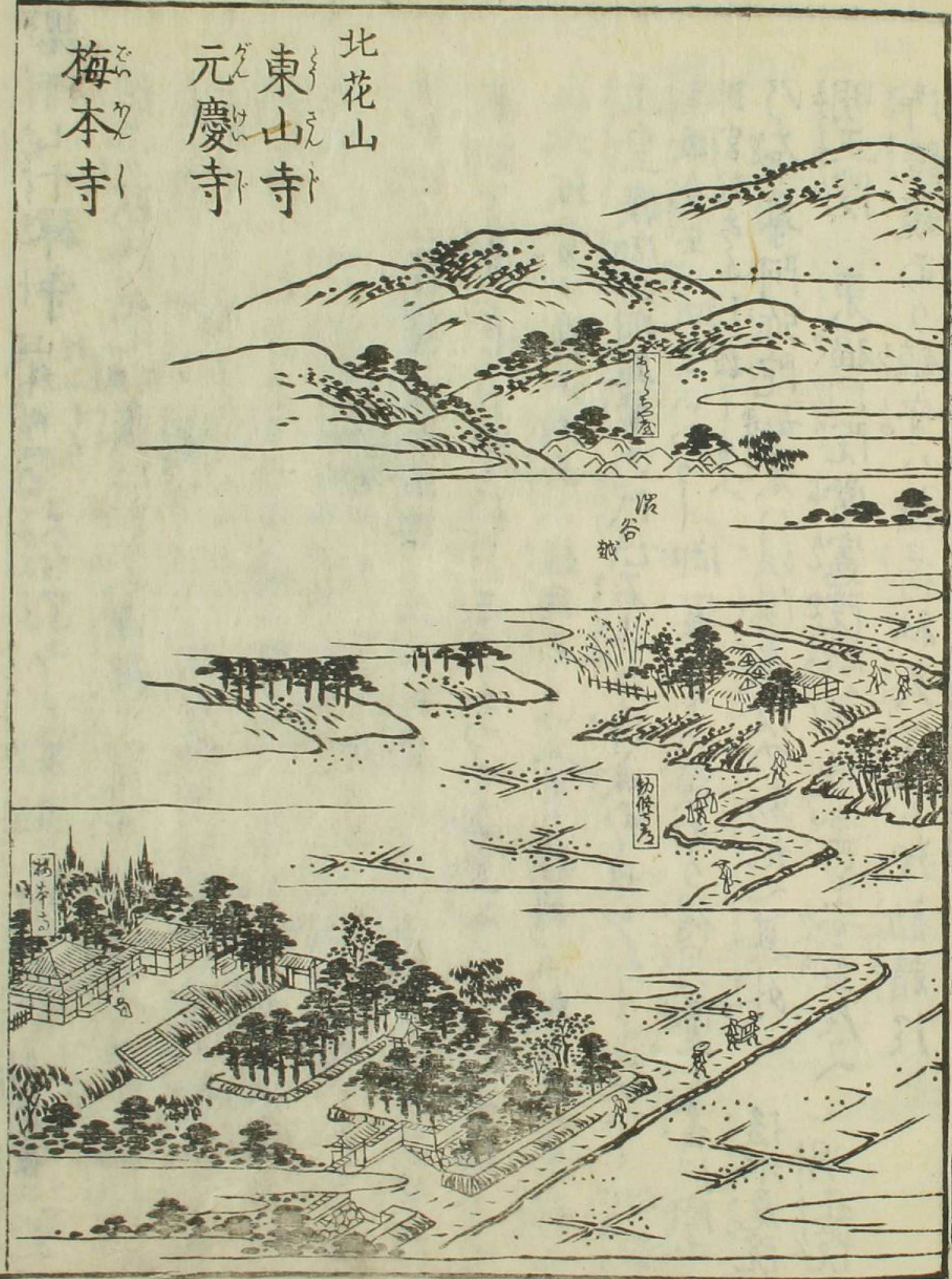
六帖 六帖

喜撰 喜撰

喜撰 喜撰



北花山  
東山寺  
元慶寺  
梅本寺





揚柳山十禪寺

山科郡四宮村

天台宗にて本尊ハ聖觀音

立像長二聖尺又寸

徳太子の清化之勅

封

舊地ハ人帝親王の清所之山階宮と稱ス

第の皇子四品彈正尹山科宮と号ス

仁明天皇貞觀元年五月入道一多は十四年薨と

祖と候それより久しく荒廢小坪といひ坂天和年中ハ真慶法師

中興して此小住せり 法師興相乃道人 堂舎ハ人皇百

十代明正院靈爰坂感想一移ハ明曆之末ハ再營ありて二重乃

高閣と建らまるとして得月臺とあづく上皇ありて竹葉はして

山水坂愛し移小閣お小短冊石といふあり短冊坂敷さるる形之

上皇渡御の御鳳輦の代は石上坂清成ありとせられとせり

涼板今出川の東ハあり別宮坂さふ引板しあり 御宸筆の額あり得月臺と書ハ閣中

乃本尊阿弥陀如来ハ後陽成院の勅化之具外 後水尾院

明正院 東福門院常憲院殿等神靈と安んじ又 明正院

淨體鏡あり鎮守ハ稻荷社天満宮坂勸請に

四宮川

十禪寺橋

巡り地藏

蟬九塔

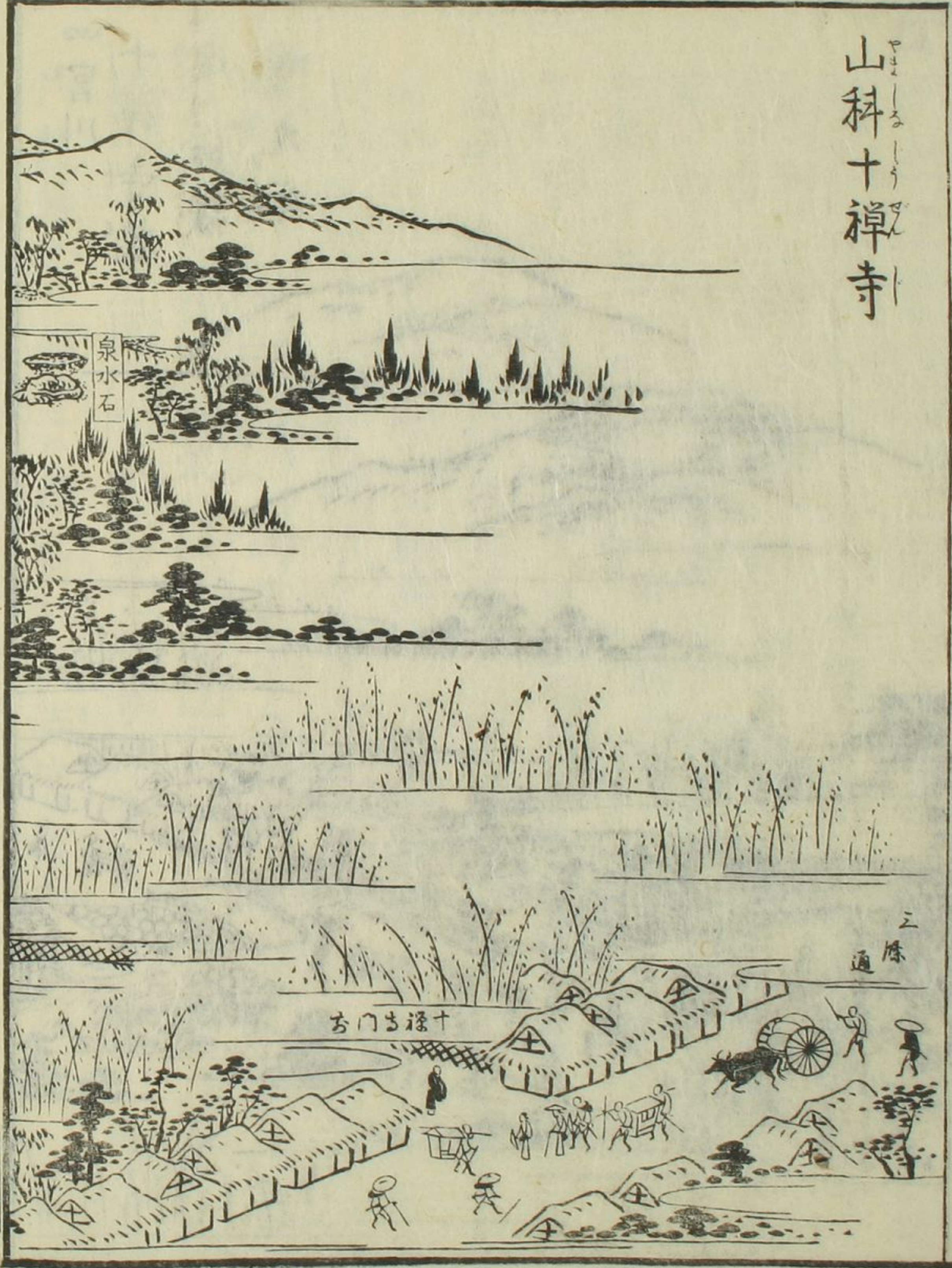






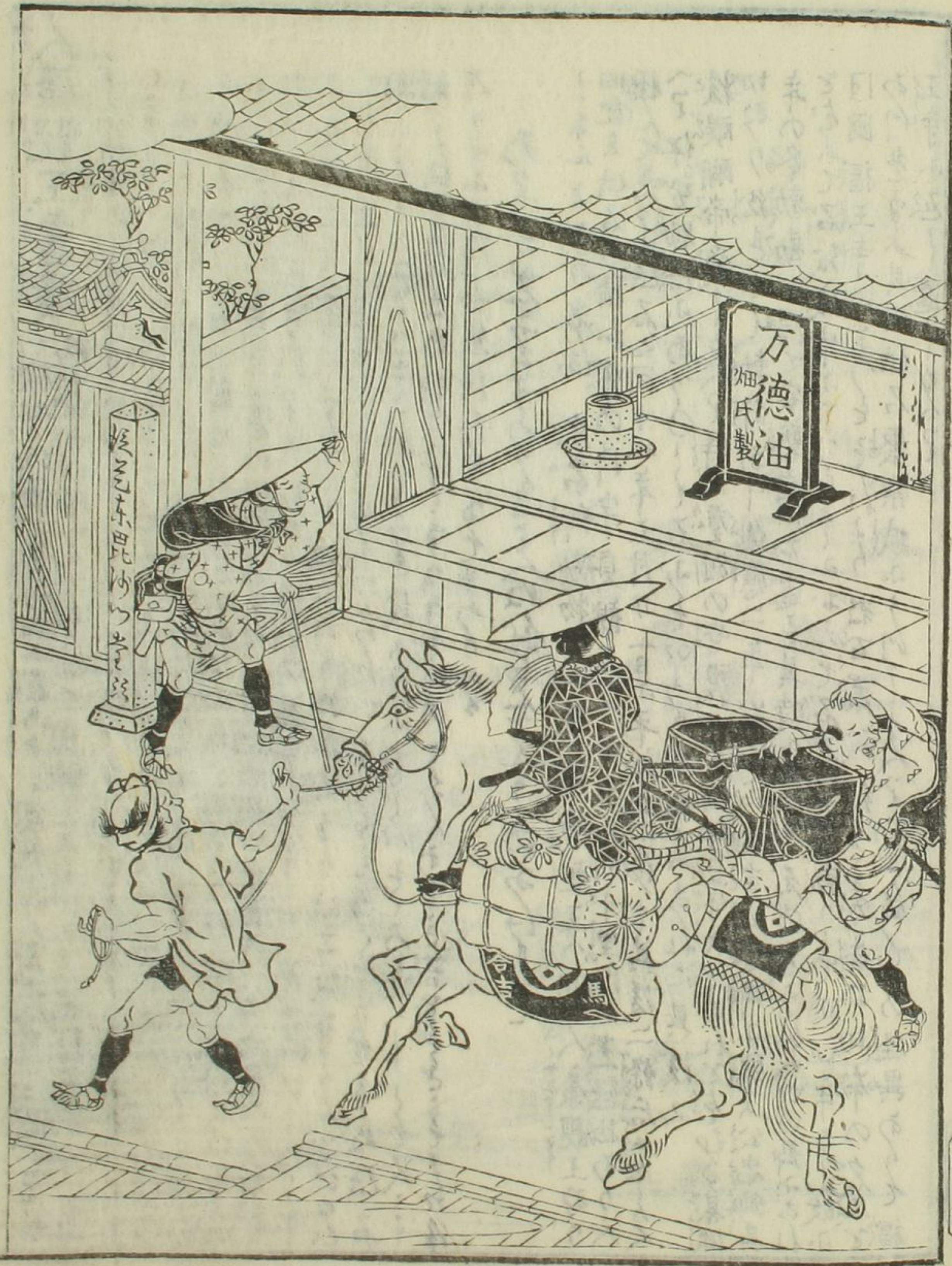
山本

山科十禅寺



三四十四



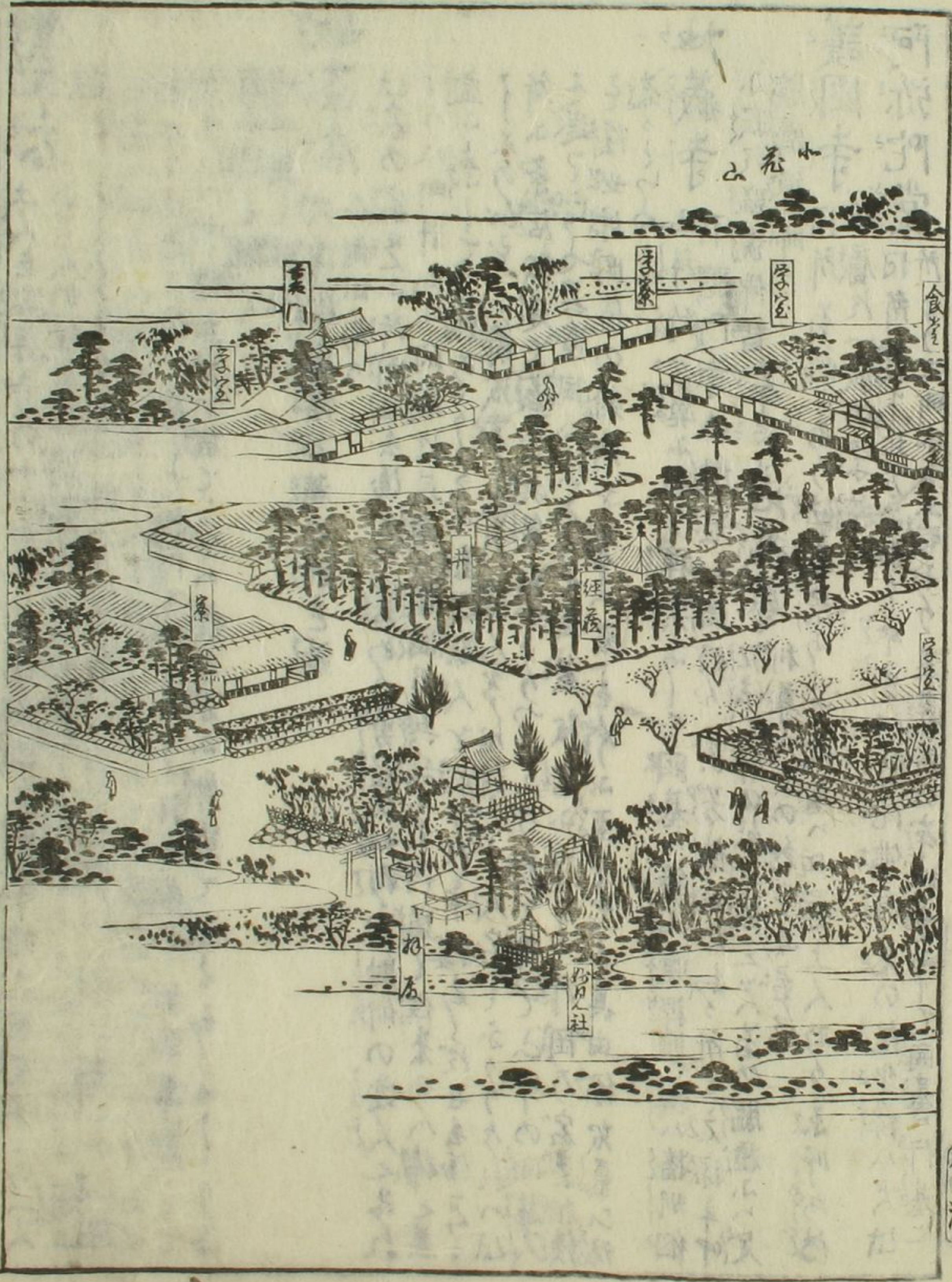


叔茶屋  
 空ふ  
 ぬい  
 几中  
 名屋の  
 福





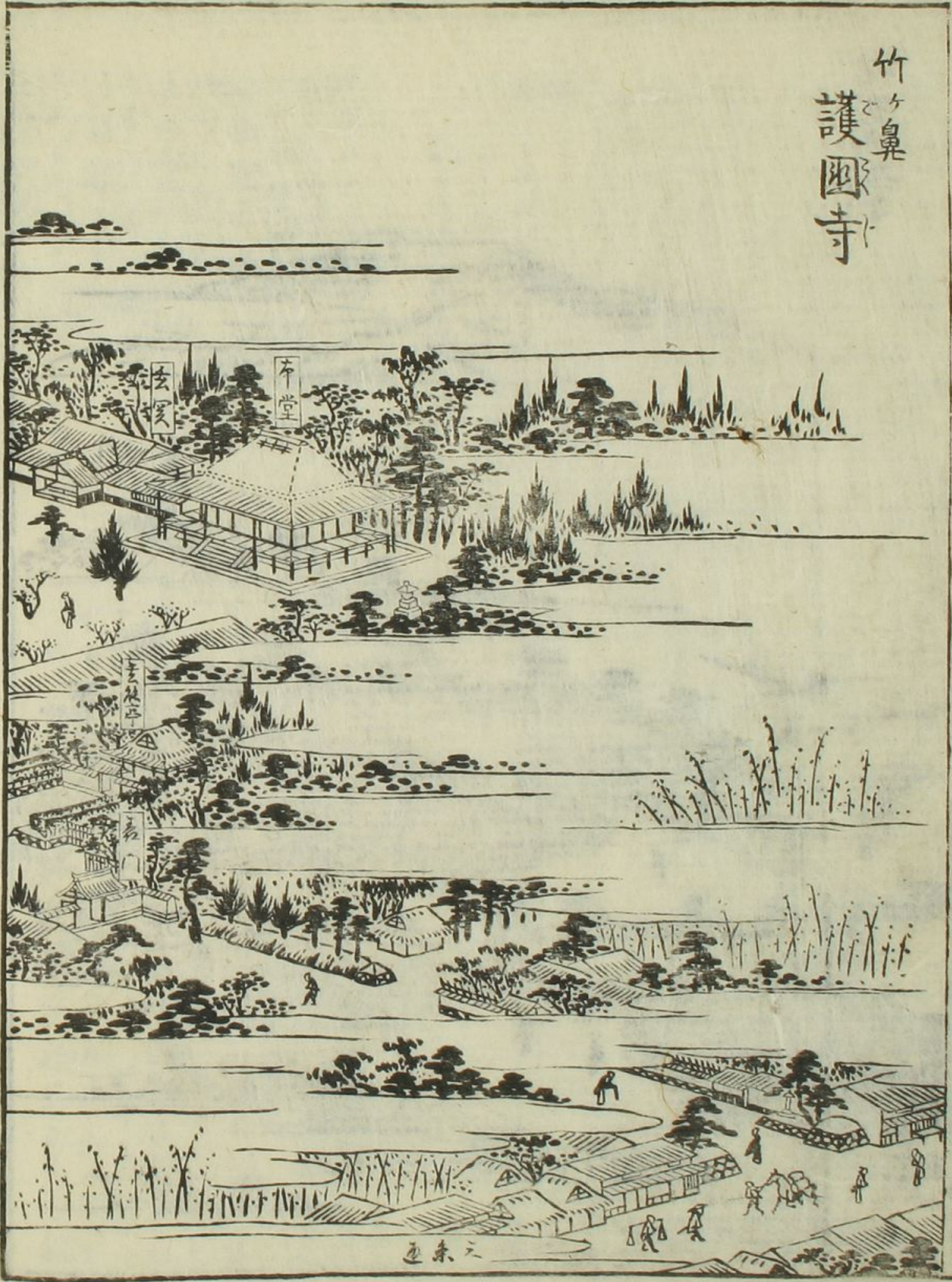




伊澤

二四七

竹ノ鼻  
護國寺



蓮末



業平谷

昔物語云右近中將在原業平と云人  
あつた人の痕小容顔豊みして世小知くまらありんか  
盗ししてくり具と匂ふ隠と人託所乃ふりり  
倉ありは内は娘と具と將行て対りり  
惶々しは中將をがと殺て女との後乃方小押遣て起く  
雷電霹靂して

茶店

大津街道藩谷越乃別と流  
は家の家先小所開田を湯といふ者あり勇猛の奴射術の達人と云れ  
虚小計小盗賊と云く此小諸國乃兵討て街道に性来の人構と具  
所小茶店販建て藝小無茶飲と云り了引矢と擧て公中の間人  
を返つて其遺風小ありて武藝販店ふりて一所國乃家相傳  
と後世所國流の射術と云ふ者今小至ると具由縁衣慕ひ

地藏寺

山科竹ヶ鼻小あり禪宗ありて岡基ハ鐘山曉禪師中興ハ播州細  
干龍ノ寺の盤珪ハ尚那り具芳徳世の初所之ハ縁年  
小寂に盤號佛智本尊地藏尊利弘大師の位之係三尺有の脇櫃小足  
勝濟禪師

阿弥陀堂

日所爲下北方小あり本寺阿弥陀佛行基の位坐縁八尺け  
所より二町小三昧あり具葬所の本師堂ありて岡基ハ行基



早稲田大学図書館

011688994723